作成 2021/05/21

機器メーカー別 測定項目情報、QC データ保存方法、ロット特定方法

BM シリーズの機種別操作 2

日立分析装置の機種別操作 13

TBA シリーズの機種別操作 29

AU シリーズの機種別操作 43

ロシュ分析装置の機種別操作 56

シーメンス分析装置の機種別操作 71

作成 2021/05/21

BM シリーズの機種別操作

測定項目管理(BM)

QC データの保存方法(BM)

<BM2250 の場合>

<BM6050/9130 の場合>

<BM6010 の場合>

<BM6070 の場合>

<BM8000 シリーズの場合>

<ZS050 の場合>

ロット番号管理(BM)

問い合わせ窓口一覧(BM)

測定項目管理(BM)

(分析装置のチャンネル情報を確認する方法)

(1) BM2250、BM6050/9130、BM6010、BM6070 すべて共通です。

[測定項目情報]には分析装置で登録されている[処理項目 No.]を入力してください。

なお、処理項目 No. の確認は、BM 操作部の「項目セレクト」(または「依頼項目受付」)画面の「項目表」で行うことができます。

(2) ZS050 の測定項目情報について

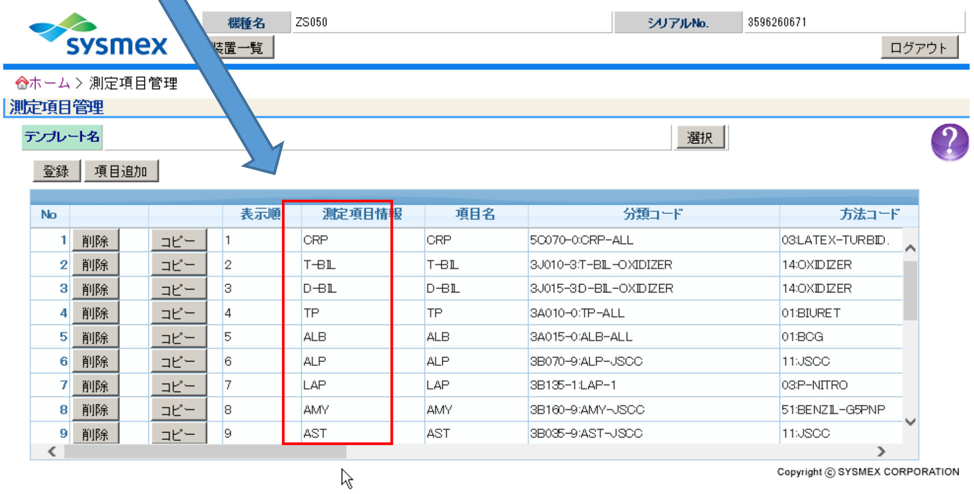
リアルタイムモニターの最左列の「項目名」を入力して下さい。なお、「γ」は使用できませんので分析装置本体の設定を「r」又は「G」に変更して下さい。

********** リアルタイムモニター **********

日時 : 2018年10月2日 19:04:00
オペレーター名 : manager
システム # : CA1135000520052　　システムバージョン : 2.7.0.2213

2018/10/02 16:18:14
QC001_0008　　RACK30001-01　QAPトロールXＩ　　1QL-118

項目名	多重回数	濃度	定性	データフラグ	ラウンド	希釈条件
T-BIL	1	1.1			1	M
D-BIL	1	0.5			1	M
LDH	1	154			1	M
ASTⅡ	1	40			1	M
ALTⅡ	1	30			1	M
ALP	1	200			1	M
γ-GT	1	27			1	M
CK	1	145			1	M
CK-MB	1	3			1	M
N-AMY	1	102			1	M
F-ChE	1	209			1	M
TP	1	5.18		H	1	M
ALB	1	3.23		H	1	M
T-CHO	1	113		H	1	M
TG-N	1	115		HH	1	M
HDL	1	35.9			1	M
LDL	1	55.2			1	M
GLU-J	1	91			1	M
UN	1	15.1			1	M



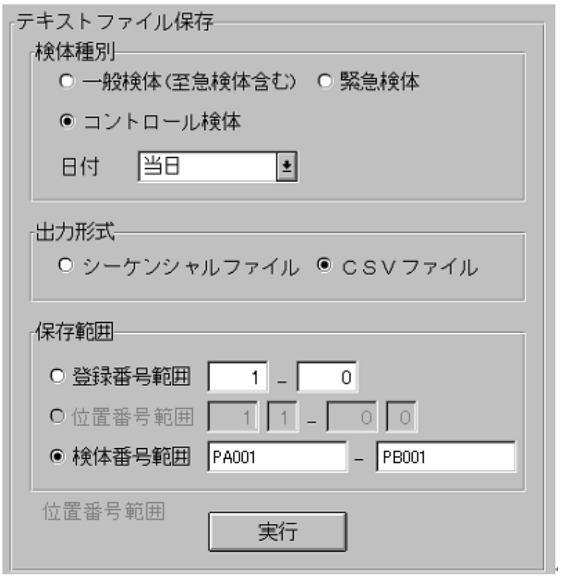
操作方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

QC データの保存方法(BM)

ご利用の運用方法によっては画面の選択結果が異なる場合があります。

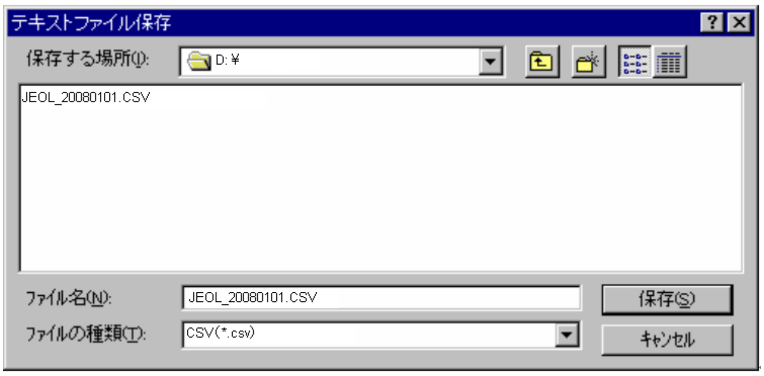
<BM2250 の場合>

1. 「装置管理」－「ユーザメンテナンス」コマンドを選択すると、ユーザメンテナンス画面が表示されます。画面の右上に、テキストファイルの作成条件を設定する、テキストファイル保存画面が表示されます。



テキストファイル保存条件設定画面（BM2250）

2. 検体種別は一般検体（至急検体含む）、緊急検体、コントロール検体のいずれかを選択してください。
3. 試料を測定した日付を選択します。初期値は当日になっています。
4. 出力形式は、CSV ファイルを選択してください。
5. 保存範囲は、登録番号範囲、位置番号範囲、検体番号範囲のいずれかを選択して設定してください。
6. 実行ボタンをクリックすると、テキストファイル保存画面が表示されます。
   ディレクトリの初期表示は「D:¥」になっています。拡張子のデフォルトは、CSV ファイルの場合は「.CSV」となりますので、確認してください。



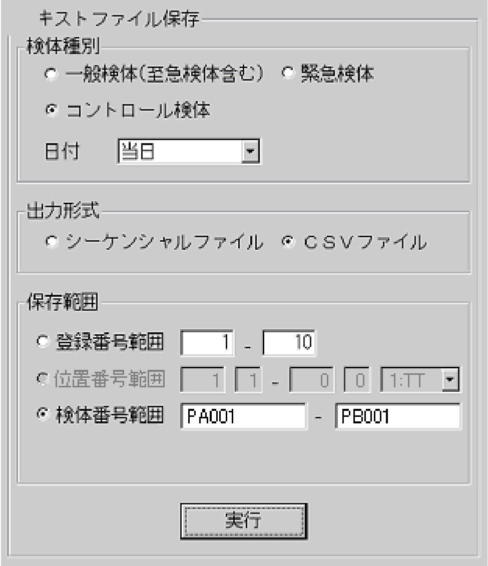
テキストファイル保存画面（BM2250）

7. 保存先のディレクトリとファイル名（任意の文字列＋YYYYMMDD）を入力して保存ボタンをクリックしてください。（例：JEOL_20080101.CSV）

注意： C:¥A002 ディレクトリとそのサブディレクトリには保存できません。 また、保存先の空き容量によっては、ファイルが作成されない場合があります。

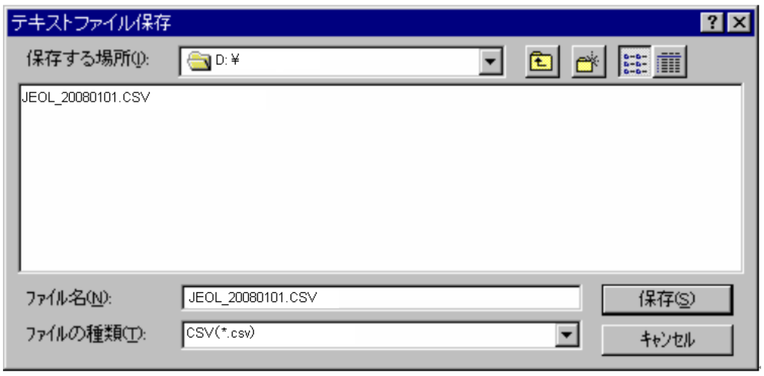
<BM6050/9130 の場合>

1. 「装置管理」－「ユーザメンテナンス」コマンドを選択すると、ユーザメンテナンス画面が表示されます。画面の右上に、テキストファイルの作成条件を設定する、テキストファイル保存画面が表示されます。



テキストファイル保存条件設定画面（BM6050/9130）

2. 検体種別は一般検体（至急検体含む）、緊急検体、コントロール検体のいずれかを選択してください。
3. 試料を測定した日付を選択してください。初期値は当日になっています。
4. 出力形式は、CSV ファイルを選択してください。
5. 保存範囲は、登録番号範囲、位置番号範囲、検体番号範囲のいずれかを選択して設定してください。位置番号範囲を選択された場合は、TT または RACK を選択してから範囲を設定してください。
6. 実行ボタンをクリックすると、テキストファイル保存画面が表示されます。
   ディレクトリの初期表示は「D:¥」になっています。拡張子のデフォルトは、CSV ファイルの場合は「.CSV」となりますので、確認してください。



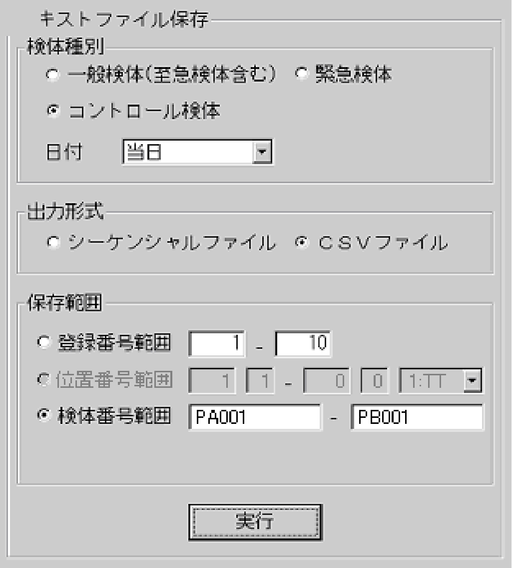
テキストファイル保存画面（BM6050/9130）

7. 保存先のディレクトリとファイル名（任意の文字列＋YYYYMMDD）を入力して保存ボタンをクリックしてください。（例：JEOL_20080101.CSV）

注意： C:¥A002 ディレクトリとそのサブディレクトリには保存できません。 また、保存先の空き容量によっては、ファイルが作成されない場合があります。

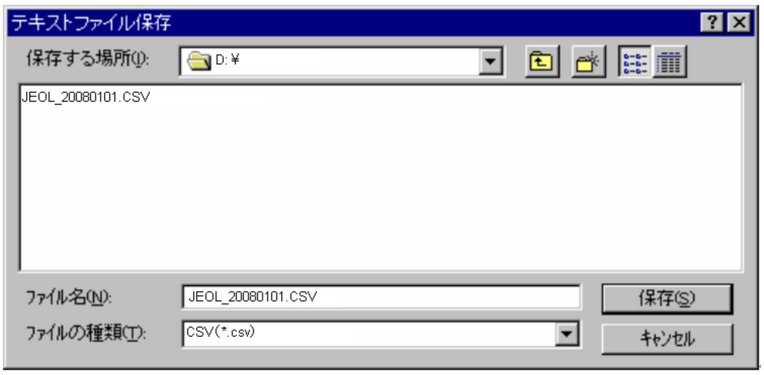
<BM6010 の場合>

1. 「装置管理」－「ユーザメンテナンス」コマンドを選択すると、ユーザメンテナンス画面が表示されます。画面の右上に、テキストファイルの作成条件を設定する、テキストファイル保存画面が表示されます。



テキストファイル保存条件設定画面（BM6010）

2. 検体種別は一般検体（至急検体含む）、緊急検体、コントロール検体のいずれかを選択してください。
3. 試料を測定した日付を選択してください。初期値は当日になっています。
4. 出力形式は、CSV ファイルを選択してください。
5. 保存範囲は、登録番号範囲、位置番号範囲、検体番号範囲のいずれかを選択して設定してください。位置番号範囲を選択された場合は、TT または RACK を選択してから範囲を設定してください。検体番号範囲を選択された場合は、リアルタイムモニターの画面で検体番号を確認して設定してください。検体種別でコントロール検体を選択した場合は、位置番号範囲を選択することはできません。
6. 実行ボタンをクリックすると、テキストファイル保存画面が表示されます。
   ディレクトリの初期表示は「D:¥」になっています。拡張子のデフォルトは、CSV ファイルの場合は「.CSV」となりますので、確認してください。



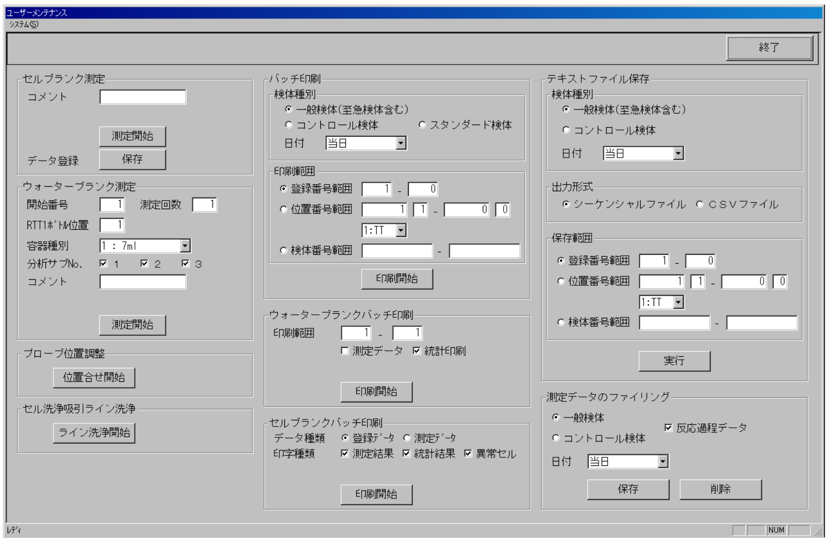
テキストファイル保存画面（BM6010）

7. 保存先のディレクトリとファイル名（任意の文字列＋YYYYMMDD）を入力して保存ボタンをクリックしてください。（例：JEOL_20080101.CSV）

注意： C:¥BIOMJ ディレクトリとそのサブディレクトリには保存できません。
保存先の空き容量によっては、ファイルが作成されない場合があります。

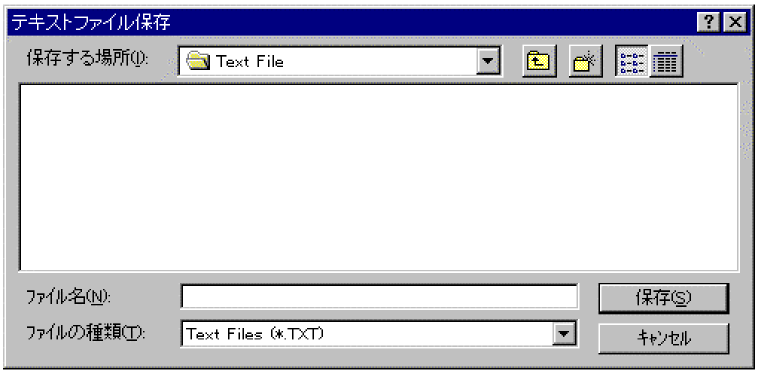
<BM6070 の場合>

1. 「装置管理」－「ユーザメンテナンス」コマンドを選択すると、ユーザメンテナンス画面が表示されます。画面の右上に、テキストファイルの作成条件を設定する、テキストファイル保存画面が表示されます。



テキストファイル保存条件設定画面（BM6070）

2. 検体種別は一般検体（至急検体含む）、緊急検体、コントロール検体のいずれかを選択してください。
3. 試料を測定した日付を選択してください。初期値は当日になっています。
4. 出力形式は、CSV ファイルを選択してください。
5. 保存範囲は、登録番号範囲、位置番号範囲、検体番号範囲のいずれかを選択して設定してください。位置番号範囲を選択された場合は、TT または RACK を選択してから範囲を設定してください。
6. 実行ボタンをクリックすると、テキストファイル保存画面が表示されます。
   ディレクトリの初期表示は「D:¥」になっています。拡張子のデフォルトは、CSV ファイルの場合は「.CSV」となりますので、確認してください。



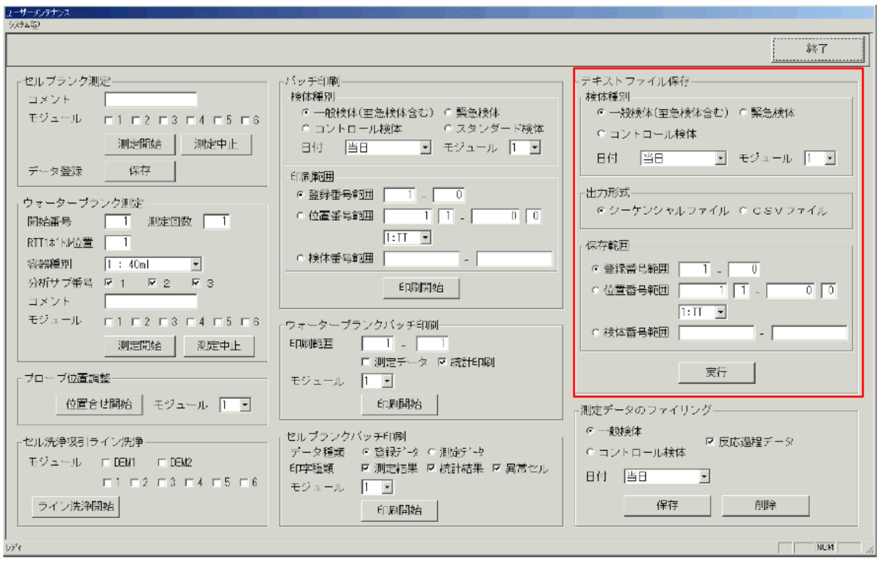
テキストファイル保存画面（BM6070）

7. 保存先のディレクトリとファイル名（任意の文字列＋YYYYMMDD）を入力して保存ボタンをクリックしてください。（例：JEOL_20100801.CSV）

注意： C:¥A002 ディレクトリとそのサブディレクトリには保存できません。
保存先の空き容量によっては、ファイルが作成されない場合があります。

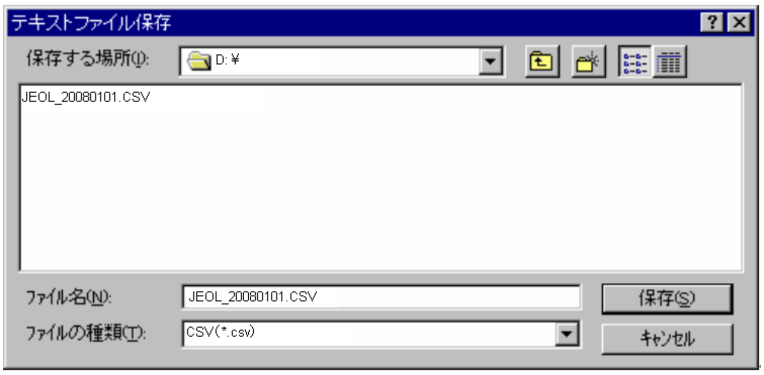
<BM8000 シリーズの場合>

1. 「装置管理」－「ユーザメンテナンス」コマンドを選択すると、ユーザメンテナンス画面が表示されます。画面の右上に、テキストファイルの作成条件を設定する、テキストファイル保存画面が表示されます。



テキストファイル保存条件設定画面

2. 検体種別は一般検体（至急検体含む）、緊急検体、コントロール検体のいずれかを選択してください。
3. 試料を測定した日付を選択してください。初期値は当日になっています。
4. 出力形式は、CSV ファイルを選択してください。
5. 保存範囲は、登録番号範囲、位置番号範囲、検体番号範囲のいずれかを選択して設定してください。位置番号範囲を選択された場合は、TT または RACK を選択してから範囲を設定してください。検体番号範囲を選択された場合は、リアルタイムモニターの画面で検体番号を確認して設定してください。検体種別でコントロール検体を選択した場合は、位置番号範囲を選択することはできません。
6. 実行ボタンをクリックすると、テキストファイル保存画面が表示されます。
ディレクトリの初期表示は「D:¥」になっています。拡張子のデフォルトは、CSV ファイルの場合は「.CSV」となりますので、確認してください。



テキストファイル保存画面（BM6010）

7. 保存先のディレクトリとファイル名（任意の文字列＋YYYYMMDD）を入力して保存ボタンをクリックしてください。（例：JEOL_20080101.CSV）

注意： C:¥BIOMJ ディレクトリとそのサブディレクトリには保存できません。
保存先の空き容量によっては、ファイルが作成されない場合があります。

<ZS050 の場合>

リアルタイムモニターでデータを出力する手順

① ZS050 の PC（DVD ドライブ）にメディアをセットする。

② ［リアルタイムモニター］画面を開く。

③ ［システム日付］を選択する。

□ ZS050 では 100 起動 ID 分のデータを保持しています。

④ ［カテゴリー選択］から、データを出力する検体カテゴリー（患者検体/コントロール検体）を選択する。

⑤ 画面左に表示されたインデックス部（検体 ID リスト）から、データを出力する検体 ID を選択する。

□ キーボードの Shift キーで範囲選択、Ctrl キーで個別選択が可能です。

□ 選択されている検体 ID は、インデックス部で着色表示されます。（図 1）

⑥ 検体 ID が選択され、画面中央のデータ表示部にデータが表示されていることを確認し、［ファイル出力］ボタンを指示する。

⑦ ［選択中の測定ログをファイル出力する］を選択し、［OK］ボタンを指示する。（図 2）

図 1

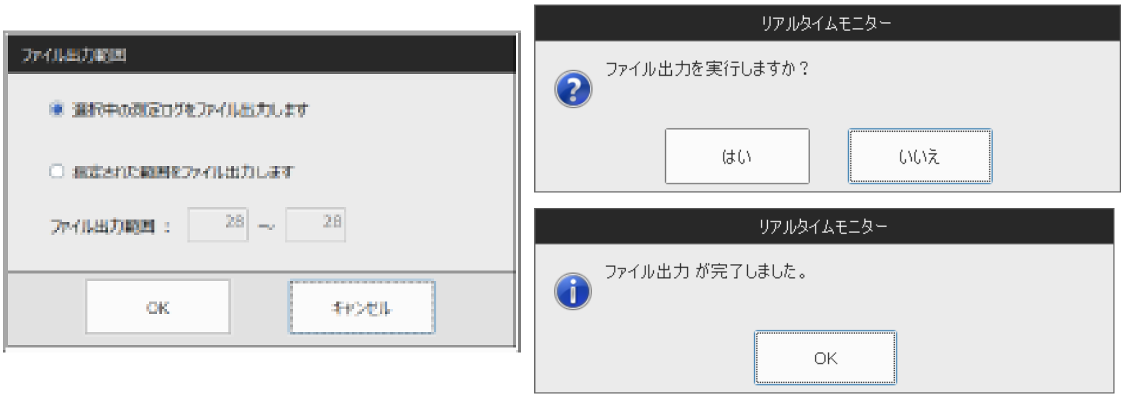


図 2

⑧ メディアを取り出し、データが出力されていることを確認する。

□ データはテキストファイルで出力されます。

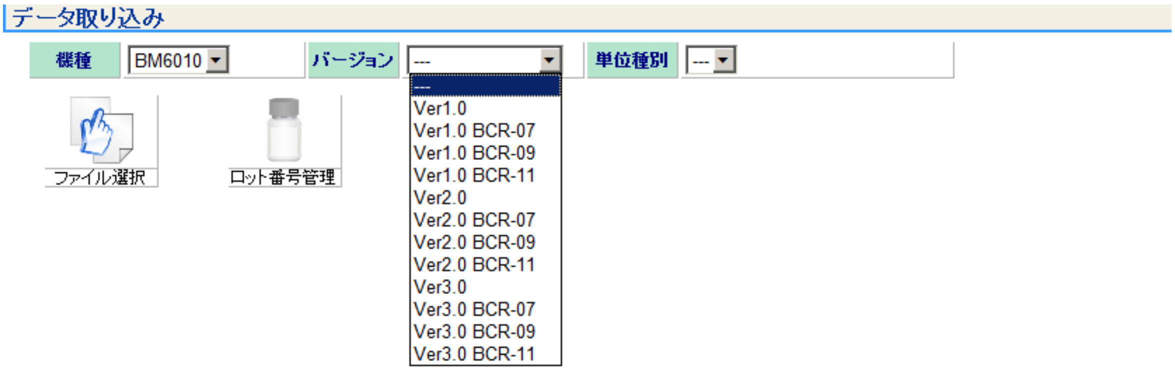
□ ファイル名は「リアルタイムモニター_YYYYMMDDxxxxxx.txt」となります。

例：「リアルタイムモニター_20161216103335.txt」

ロット番号管理(BM)

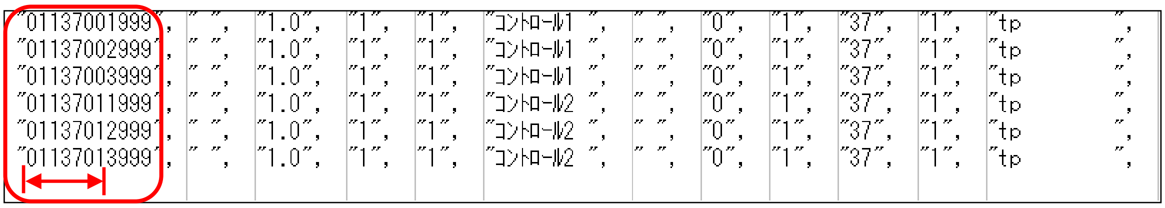
ロット番号の特定方法は「検体識別番号運用」のみです。

1. ホーム ＞ データ取り込み
2. 分析装置の機種名、バージョン名、単位種別を選択して、[ファイル選択]をクリックします。
   検体識別の運用方法によって選択するバージョン名が異なります。下表を参照してください。
   運用方法に合うバージョン名がない場合、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。
   ※BM-6010 の場合、装置のバージョンが V1.0 は 10 桁で測定値が出力されます。V2.0 以降は 9 桁で測定値が出力されます。取り込めない場合は測定値の桁数をご確認ください。



運用方法	バージョン名	操作
検体識別番号運用	Ver1.0、Ver2.0 など	バージョンを選択してください
バーコード運用	Ver1.0 BCR-07、ver1.0 BCR-XX、 Ver2.0 BCR-07、ver2.0 BCR-XX など	バージョン＋バーコードの桁数を選択してください （BCR-XX: XX はバーコード No.の前方から XX 桁使用するかを表します）

バーコード桁数の確認方法は、QC データを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。バーコード No.の前方から何桁使用してロット番号を特定するか確認してください。



3. ファイル選択画面が表示されます。データの保存先を指定して[OK]をクリックしてください。
4. 未登録のロット情報が存在する場合、「ロット番号管理」画面が表示されます。
   特定方法、ロット番号情報は取り込みデータから自動で判断されますので、変更しないでください。

No		特定方法	ロット番号情報	コントロール	ロット番号	除外コード	最終更新日時
1	削除	検体識別番号運用	XX			☑	2014-10-01 13:39:36
2	削除	検体識別番号運用	PA	QAP-Trol	1QL-114	☐	2014-10-01 13:39:36
3	削除	検体識別番号運用	PB	QAP-Trol	2QL-214	☐	2014-10-01 13:39:36

5. 使用するロット番号情報に対応する[コントロール]を選択してください。
6. [ロット番号]を選択してください。ロット番号は「レベル＋試料のビンラベルに記載してある製造番号（例：1QL-109）」となります。
7. 「データ取り込み」画面で取り込む必要がないロット番号情報は[除外コード]にチェックを入れてください。
   （上図は手順 5～7 が完了した画面を示します）
8. 入力完了後、[保存]ボタンをクリックしてください。
9. 確認画面が表示されます。[OK]をクリックしてください。
10. 画面左上の データ取り込み をクリックし、「データ取り込み」画面に戻ります。

問い合わせ窓口一覧(BM)

1. QC Register システムに関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にて対応いたします。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
シスメックス株式会社 カスタマーサポートセンター	(電話) 0120-413-034 (FAX) 078-992-3373	9:00～17:35 平日(就業日に限る)

2. 自動分析装置に関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にて対応いたします。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
日本電子株式会社 ME ソリューションセンター	(電話) 0120-134-770 (FAX) 0120-137-765	8:30～20:00 平日(就業日に限る)

作成 2021/05/21

日立分析装置の機種別操作

測定項目管理(HT)

QC データの保存方法(HT)

- <7180 の場合> ※EV800 を含む
- <7600/7700 の場合>
- <LABOSPECT003 の場合>
- <LABOSPECT006 の場合>
- <LABOSPECT008 の場合>
- <LABOSPECT008αの場合>
- <3100/3500 の場合>

ロット番号管理(HT)

問い合わせ窓口一覧(HT)

測定項目管理（HT）

装置毎に設定されている名称または番号[半角英数字]を[測定項目情報]に入力してください。

[測定項目情報]の設定は機種ごとに異なりますので、下表を参照して該当する項目を入力してください。

[測定項目情報]の確認方法は、QC データを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

機種	測定項目情報　入力内容	設定例
7180/EV800 **注 1**	「項目名」（5 バイトまでの半角文字列）	**ALT** **rGT**
7600 **注 2、3**	「アプリケーションコード No」（1～999） 「モジュールタイプ」（P, D など） 「モジュール番号」（1～6） を半角「＋」で連結	**アプリケーションコード No.が “200”、** **モジュールタイプが “D”、** **モジュール番号が “2” の場合** **⇒ 200+D+2**
7700 **注 3、4**	「アプリケーションコード No」（1～999） 「測定モジュール名称」 を半角「＋」で連結	**53+P1**
LABOSPECT003 **注 4**	「アプリケーションコード No」（1～9999）	**2005**
LABOSPECT006 **注 5**	「項目コード」（1～99999）	**990**
LABOSPECT008 **注 4**	「テスト項目コード」（1～9999） 「測定モジュール-ライン」 を半角「＋」で連結	**アプリケーションコード No.が “2001”、** **測定モジュール-ラインが “X2-A” の場合** **⇒ 2001+ X2-A**
LABOSPECT008 α **注 7**	「テスト項目コード」（1～9999） 「測定モジュール-ライン」 バージョンに「ALL」を選択した場合と「ALL:008 式」を選択した場合で入力内容が異なります	**アプリケーションコード No.が “2001”、** **測定モジュール-ラインが “1-S-A” の場合** **バージョンとして「ALL」を選択した場合** **⇒2001** **バージョンとして「ALL:008 式」を選択した場合** **⇒2001+1-S-A**

※　「測定項目情報」には、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置から QC Register システムにデータを取り込むことができません。

各装置での項目の確認方法、その他操作方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

注1 測定項目名にはギリシャ文字の「α（アルファ）」、「β（ベータ）」、「γ（ガンマ）」を使用することができません。分析装置にて「a」、「B」、「r」等の半角英数文字を設定してください。

注2 7600 形の Ver.8 以降では、FD 出力時に「旧 7600 形形式 FD 出力」を選択することが可能です。選択しない場合は 7700 形形式でデータ出力されますので、日立 7700 の設定を参照し、測定項目管理を行ってください。

7700 形では FD 出力時に「旧 7600 形形式 FD 出力」を選択することが可能ですが、これを選択しないでください。選択した場合は出力データフォーマットが異なるため、正しくデータを読み込むことができません。

注3 使用中（カレント）ボトルと待機ボトルを設定する運用において、同時刻に 1 つの項目に対して複数のデータが存在する場合、サンプル番号（S_No.）のうちシーケンス番号（001～150）の小さいもののデータのみを読み込みます。

注4 LABOSPECT006 では、同時刻に 1 つの項目に対して複数のデータが存在する場合があります。試薬使用状況（Reagent）のうち一番小さいもののデータを読み込みます。読み込み対象データが複数の場合、平均値を算出しその値を読み込みます。

例） 測定日時が同じ 4 つのデータがある場合、試薬使用状況の一番小さい”0”の 2 つのデータが読み込み対象となります。”98”と”99”の平均値”98.5”を測定結果として読み込みます。

		22005	UN			22402	GGT		
検体ID	測定日時	測定結果	単位		試薬使用状況	測定結果	単位		試薬使用状況
QAP-2 1477	2013/06/27 13:37:35	44.8	mg/dL	…	0	98	U/L	…	0
QAP-2 1477	2013/06/27 13:37:35		mg/dL	…	0	99	U/L	…	0
QAP-2 1477	2013/06/27 13:37:35			…		100	U/L	…	1
QAP-2 1477	2013/06/27 13:37:35			…		100	U/L	…	1

LABOSPECT006 出力データサンプル

注5 精度管理試料をバーコードで一般・緊急検体として扱う運用において、同時刻に 1 つの項目に対して複数のデータが存在する場合、平均値を算出しその値を読み込みます。

注6 LABOSPECT008αでは、「使用中試薬」と「待機試薬」の両方を測定している場合、同時刻に 1 つの項目に対して複数のデータが存在します。その場合は、バージョンとして「ALL」を選択して下さい。「ALL」を選択すると試薬使用状況（Reagent）のうち一番小さいもののデータを読み込みます。”0”は使用中試薬、”1～59”は待機試薬です。なお、”0”が複数ある場合は、平均値を算出しその値を読み込みます。

この仕様は、注 5 の LABOSPECT006 と同じです。

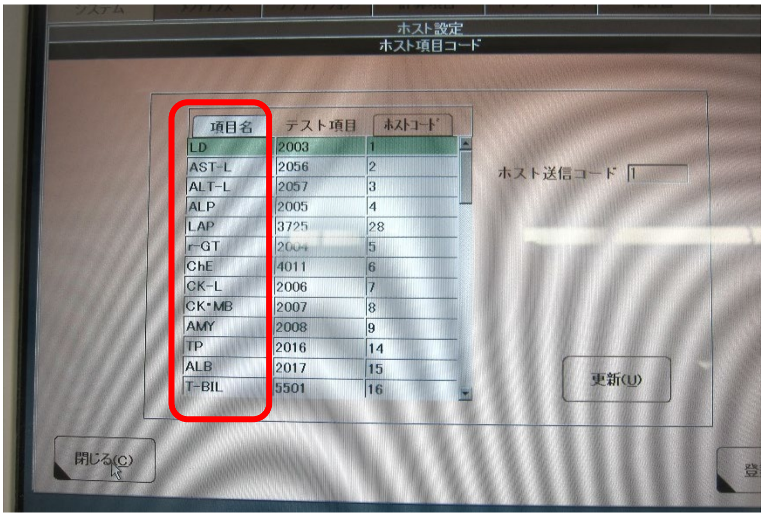
例） 測定日時が同じ 4 つのデータがある場合、試薬使用状況の一番小さい”0”の 2 つのデータが読み込み対象となります。”98”と”99”の平均値”98.5”を測定結果として読み込みます。

バージョンとして「ALL:008 式」を選択するとモジュールとライン情報も読み取りますが、「使用中試薬」と「待機試薬」については無視するため、両方測定している場合は、同時刻に 1 つの項目に対して複数のデータが存在するためエラーとなります。

【補足説明】

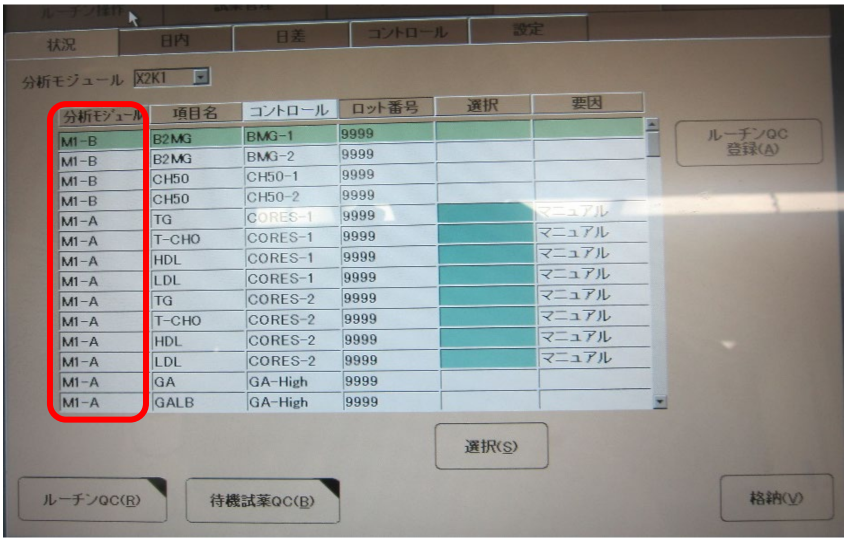
1.「テスト項目コード」の確認方法

ラボスペクト 008 の操作部において、ユーティリティ→システム→ホスト設定の「伝文情報設定」の「ホスト送信　項目コード(H)」をクリックすると以下の画面が出てくるので『テスト項目』のメモを取るか、写真を撮っておくことをお勧めします。



2.「分析モジュール」の確認方法

ラボスペクト 008 の操作部において、精度管理→状況をクリックすると以下の画面が出てくるので
項目毎に『分析モジュール』のメモを取るか、写真を撮っておくことをお勧めします。



例　X1-A , X1-B, X2-A,M1-A　など

QC データの保存方法(HT)

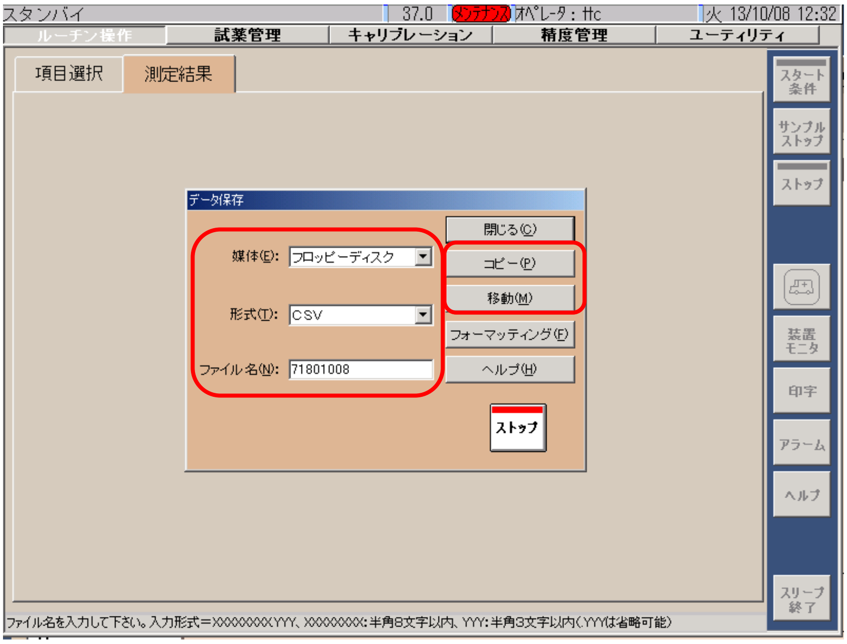
各機種共にソフトウエアのバージョンによって画面・機能に違いがある場合があります。

<7180、EV800 の場合>

1. ルーチン操作ジョブの測定結果画面を開きます。

測定結果画面

2. マウスをドラッグし、出力する検体範囲を選択します。QC 検体のみ選択してください。
3. ファンクションボタンの「データ保存」を選択すると、データ保存ウィンドウが表示されます。



データ保存ウィンドウ

4. 「媒体」は「フロッピーディスク」、「形式」は「CSV」を選択します。
5. ファイル名（最大 8 文字、拡張子は省略）を入力してください。
6. 「コピー」または「移動」ボタンをクリックします。

「移動」ボタンを選択すると、ハードディスク内のデータが消去されますのでご注意ください。

保存したファイルの拡張子は「.CSV」となります。

7180 から出力した CSV ファイル(コントロールデータ) をメモ帳で開いた場合の例

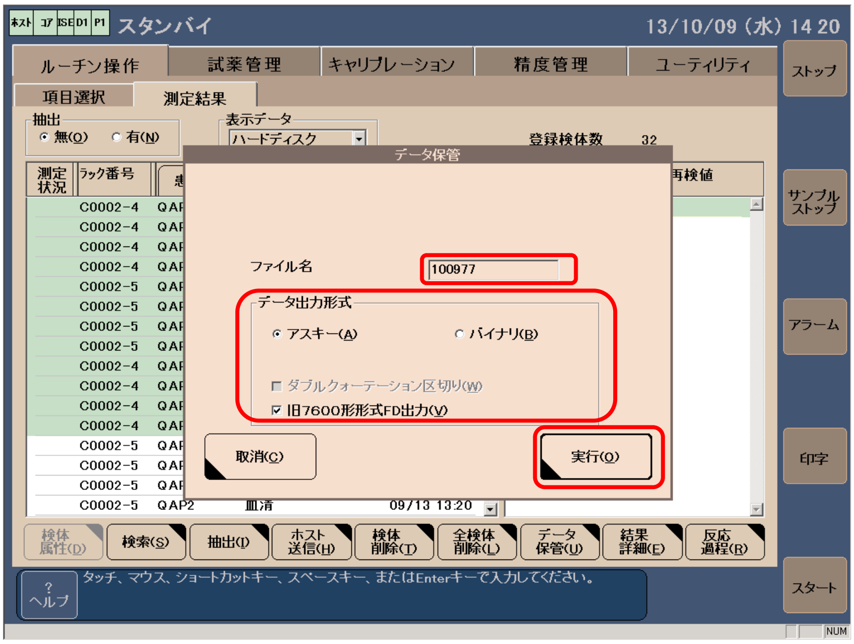
```
,,,,,,,,BUN,,,,CRE,,,,UA,,,,CHO,,,,TG,,,,HDL-C,,,,CA,,,,P,,,,CPK,,,,GLU,,,,T-BIL,,,,D-
BIL,,,,LDH,,,,GOT,,,,GPT,,,,ALP,,,,ZTT,,,,CHE,,,,LAP,,,,GTP,,,,TP,,,,ALB,,,,AMY,,,,LIP,,,,CRP,,,,FE,,,,UIBC,,,,FER,,,,
CK-MB,,,,RPR,,,,IgG,,,,IgA,,,,IgM,,,,C3,,,,C4,,,,TTT,,,,RF,,,,ASO,,,,Mg,,,,TPLA,,,,LDL-
C,,,,uTP,,,,β2MS,,,,β2MU,,,,TEIC,,,,ABK,,,,生食,,,,CRE-S,,,,GLU-S,,,,CRE-K,,,,AMY-
s,,,,NH3,,,,uALBd,,,,uALBn,,,,uALBe,,,,Na,,,,K,,,,Cl,,,,L,,,,H,,,,I,,,
識別,種別,S.No,Disk,Pos.,患者ID,測定日付,受付番号,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰ
ﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱ
ﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回
,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初
回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,
初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰ
ﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱ
ﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検
,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再
検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,
再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ,初回,ｱﾗｰﾑ,再検,ｱﾗｰﾑ
C,,04002,,44,QAP2,14/05/22
13:58,,44.1,,,,4.96,,,,8.5,,,,265,,,,251,,,,93.9,,,,11.3,,,,8.5,,,,340,,,,241,,,,4.08,,,,1.97,,,,374,,,,109,,,,103,,,,
444,,,,,,,,357,,,,135,,,,94,,,,7.2,,,,4.8,,,,249,,,,13,,,,3.645,,,,210,,,,174,,,,,,,,,,,,,,,,1014,,,,199,,,,83,,,,,,,,
,,,,,,,,,,,,,,,,4.9,,,,,,,,113.9,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,150.8,,,,5.87,,,,108.9,,,,
,,,,,,,,,,,,
C,,03002,,43,QAP1,14/05/22
13:55,,16.0,,,,1.12,,,,5.2,,,,121,,,,103,,,,41.5,,,,8.4,,,,3.8,,,,161,,,,91,,,,0.94,,,,0.41,,,,148,,,,40,,,,32,,,,238,
,,,,,,215,,,,46,,,,28,,,,4.9,,,,3.2,,,,101,,,,10,,,,0.397,,,,102,,,,160,,,,,,,,,,,,,,,,742,,,,144,,,,53,,,,,,,,,,,,,
,,,,,,,,,,,,2.1,,,,,,,,65.4,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,134.7,,,,3.99,,,,93.1,,,,,,,,,,,,
```

<7600/7700 の場合>

1. ルーチン操作ジョブの測定結果画面を開きます。

測定結果画面

2. マウスをドラッグし、出力する検体範囲を選択します。QC 検体のみ選択してください。
3. ファンクションボタンの「データ保管」を選択すると、データ保管ウィンドウが表示されます。



データ保管ウィンドウ（7700 の場合）

4. ファイル名（最大 8 文字、拡張子は省略）を入力してください。
5. 「データ出力形式」で「アスキー」を選択します。
6. 7600 のバージョン 8 以降および 7700 をお使いの場合、「旧 7600 形形式 FD 出力」のチェックボックスが画面に表示されますが、選択する場合は旧 7600 形形式に合わせた項目コード設定を行ってください。（測定項目管理 を参照してください。）
7. 実行ボタンをクリックします。

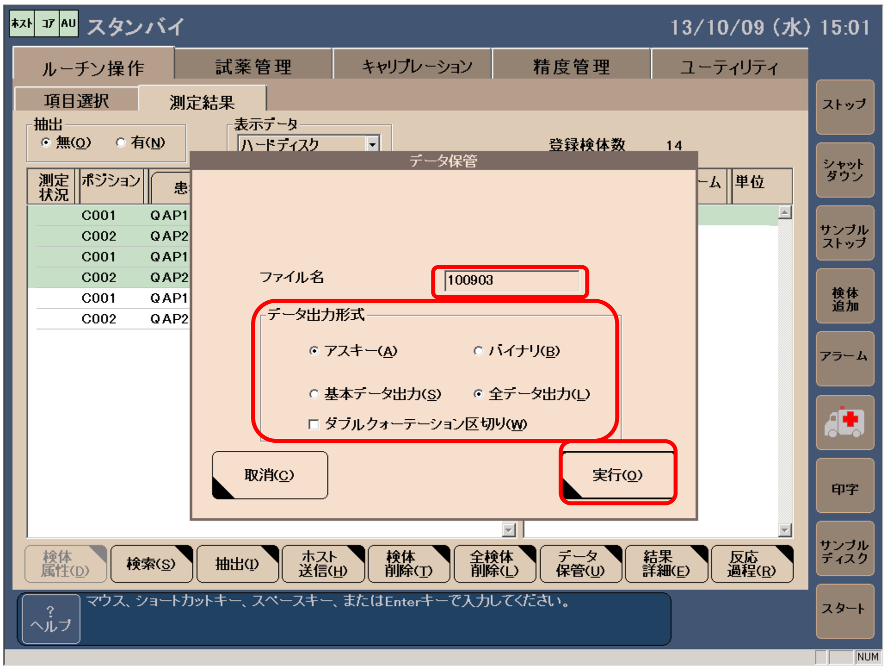
保存したファイルの拡張子は「.ASC」となります。

<LABOSPECT003 の場合>

1. ルーチン操作ジョブの測定結果画面を開きます。

測定結果画面

2. マウスをドラッグし、出力する検体範囲を選択します。QC 検体のみ選択してください。
3. ファンクションボタンの「データ保管」を選択すると、データ保管ウィンドウが表示されます。



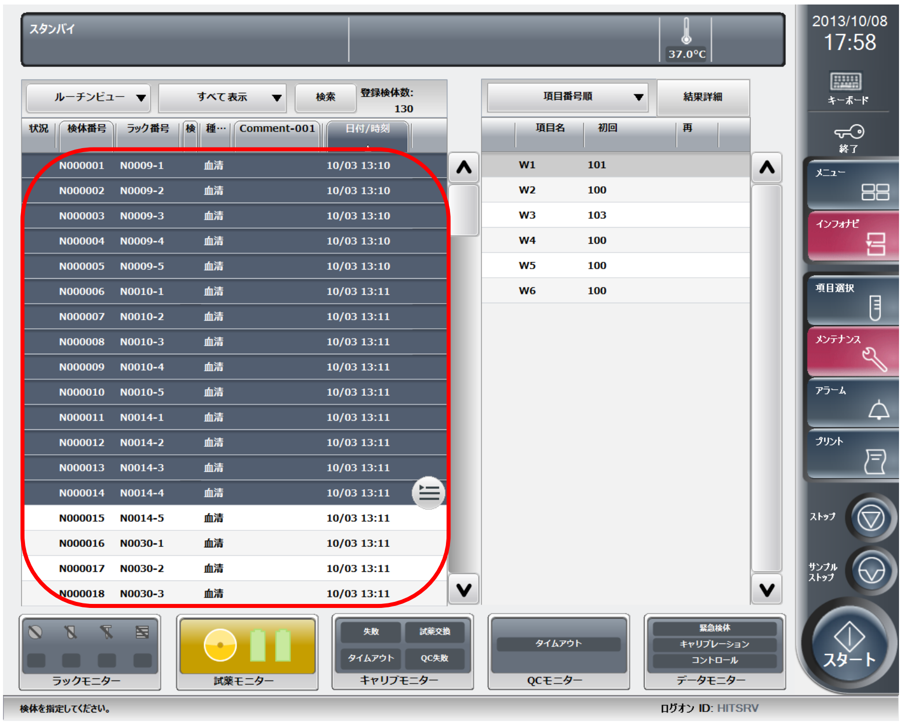
データ保管ウィンドウ

4. ファイル名（最大 8 文字、拡張子は省略）を入力してください。
5. 「データ出力形式」で「アスキー」かつ「全データ出力」を選択します。
6. 実行ボタンをクリックします。
7. 保存したファイルの拡張子は「.ASC」となります。

<LABOSPECT006 の場合>

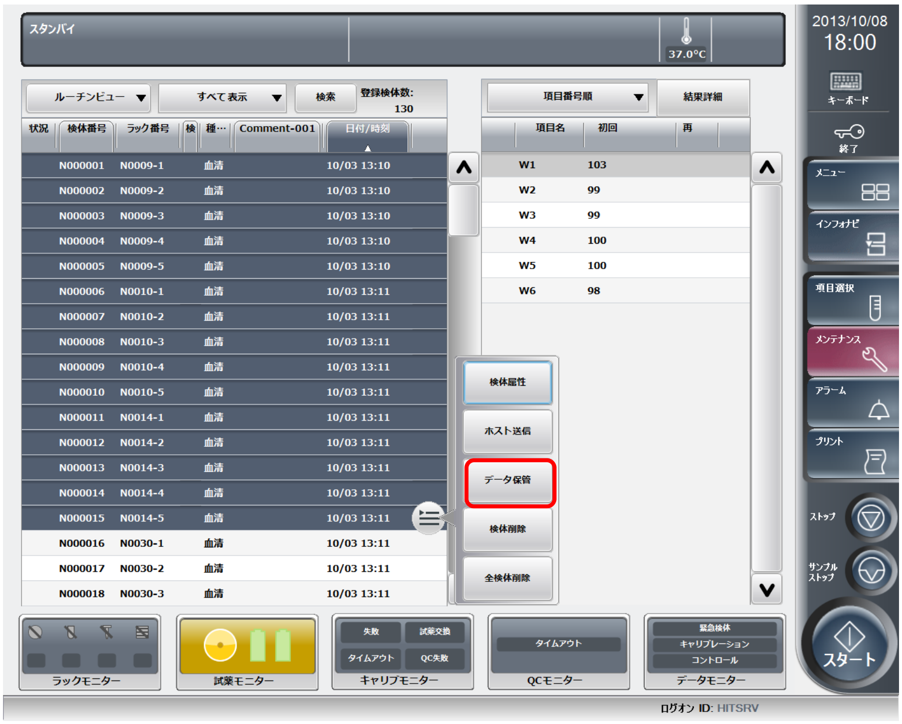
1. 測定結果画面を開きます。
2. マウスをドラッグし、出力する検体範囲を選択します。

（以下は一般検体の例です。実際は QC 検体を選択してください。）



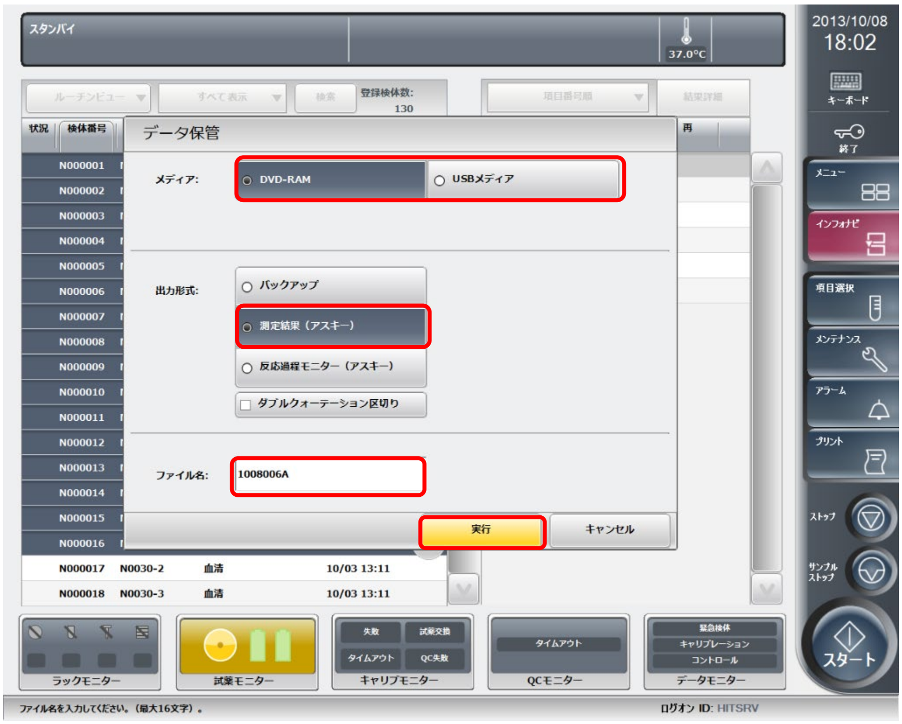
測定結果画面

3. アイテムメニューの「データ保管」を選択すると、データ保管ウィンドウが表示されます。



測定結果画面（選択）

4. メディアを選択します。



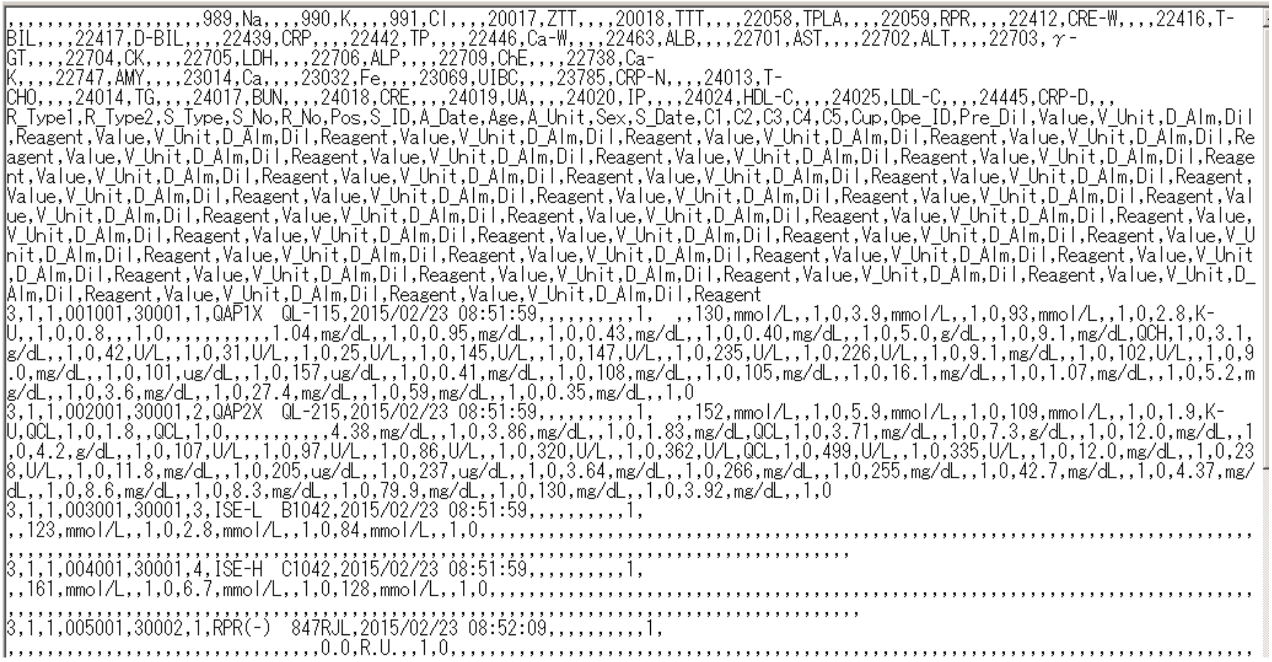
データ保管ウィンドウ

5. 「出力形式」で「測定結果（アスキー）」を選択します。

6. ファイル名（最大 16 文字、拡張子は省略）を入力してください。

7. 実行ボタンをクリックします。保存したファイルの拡張子は「.csv」となります。

LABOSPECT006 から出力した CSV ファイル(コントロールデータ) をメモ帳で開いた場合の例



```
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,989,Na,,,,990,K,,,,991,Cl,,,,20017,ZTT,,,,20018,TTT,,,,22058,TPLA,,,,22059,RPR,,,,22412,CRE-W,,,,22416,T-
BIL,,,,22417,D-BIL,,,,22439,CRP,,,,22442,TP,,,,22446,Ca-W,,,,22463,ALB,,,,22701,AST,,,,22702,ALT,,,,22703,γ-
GT,,,,22704,CK,,,,22705,LDH,,,,22706,ALP,,,,22709,ChE,,,,22738,Ca-
K,,,,22747,AMY,,,,23014,Ca,,,,23032,Fe,,,,23069,UIBC,,,,23785,CRP-N,,,,24013,T-
CHO,,,,24014,TG,,,,24017,BUN,,,,24018,CRE,,,,24019,UA,,,,24020,IP,,,,24024,HDL-C,,,,24025,LDL-C,,,,24445,CRP-D,,,
R_Type1,R_Type2,S_Type,S_No,R_No,Pos,S_ID,A_Date,Age,A_Unit,Sex,S_Date,C1,C2,C3,C4,C5,Cup,Ope_ID,Pre_Dil,Value,V_Unit,D_Alm,Dil
,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Re
agent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reage
nt,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,
Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Val
ue,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,
V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_U
nit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit
,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_
Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent,Value,V_Unit,D_Alm,Dil,Reagent
3,1,1,001001,30001,1,QAP1X  QL-115,2015/02/23 08:51:59,,,,,,,,,,1,  ,,130,mmol/L,,1,0,3.9,mmol/L,,1,0,93,mmol/L,,1,0,2.8,K-
U,,1,0,0.8,,,1,0,,,,,,,,,,,1.04,mg/dL,,1,0,0.95,mg/dL,,1,0,0.43,mg/dL,,1,0,0.40,mg/dL,,1,0,5.0,g/dL,,1,0,9.1,mg/dL,QCH,1,0,3.1,
g/dL,,1,0,42,U/L,,1,0,31,U/L,,1,0,25,U/L,,1,0,145,U/L,,1,0,147,U/L,,1,0,235,U/L,,1,0,226,U/L,,1,0,9.1,mg/dL,,1,0,102,U/L,,1,0,9
.0,mg/dL,,1,0,101,ug/dL,,1,0,157,ug/dL,,1,0,0.41,mg/dL,,1,0,108,mg/dL,,1,0,105,mg/dL,,1,0,16.1,mg/dL,,1,0,1.07,mg/dL,,1,0,5.2,m
g/dL,,1,0,3.6,mg/dL,,1,0,27.4,mg/dL,,1,0,59,mg/dL,,1,0,0.35,mg/dL,,1,0
3,1,1,002001,30001,2,QAP2X  QL-215,2015/02/23 08:51:59,,,,,,,,,,1,  ,,152,mmol/L,,1,0,5.9,mmol/L,,1,0,109,mmol/L,,1,0,1.9,K-
U,QCL,1,0,1.8,,QCL,1,0,,,,,,,,,,,4.38,mg/dL,,1,0,3.86,mg/dL,,1,0,1.83,mg/dL,QCL,1,0,3.71,mg/dL,,1,0,7.3,g/dL,,1,0,12.0,mg/dL,,1
,0,4.2,g/dL,,1,0,107,U/L,,1,0,97,U/L,,1,0,86,U/L,,1,0,320,U/L,,1,0,362,U/L,QCL,1,0,499,U/L,,1,0,335,U/L,,1,0,12.0,mg/dL,,1,0,23
8,U/L,,1,0,11.8,mg/dL,,1,0,205,ug/dL,,1,0,237,ug/dL,,1,0,3.64,mg/dL,,1,0,266,mg/dL,,1,0,255,mg/dL,,1,0,42.7,mg/dL,,1,0,4.37,mg/
dL,,1,0,8.6,mg/dL,,1,0,8.3,mg/dL,,1,0,79.9,mg/dL,,1,0,130,mg/dL,,1,0,3.92,mg/dL,,1,0
3,1,1,003001,30001,3,ISE-L  B1042,2015/02/23 08:51:59,,,,,,,,,,1,
,,123,mmol/L,,1,0,2.8,mmol/L,,1,0,84,mmol/L,,1,0,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
3,1,1,004001,30001,4,ISE-H  C1042,2015/02/23 08:51:59,,,,,,,,,,1,
,,161,mmol/L,,1,0,6.7,mmol/L,,1,0,128,mmol/L,,1,0,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
3,1,1,005001,30002,1,RPR(-)  847RJL,2015/02/23 08:52:09,,,,,,,,,,1,
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,0.0,R.U.,,1,0,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
```

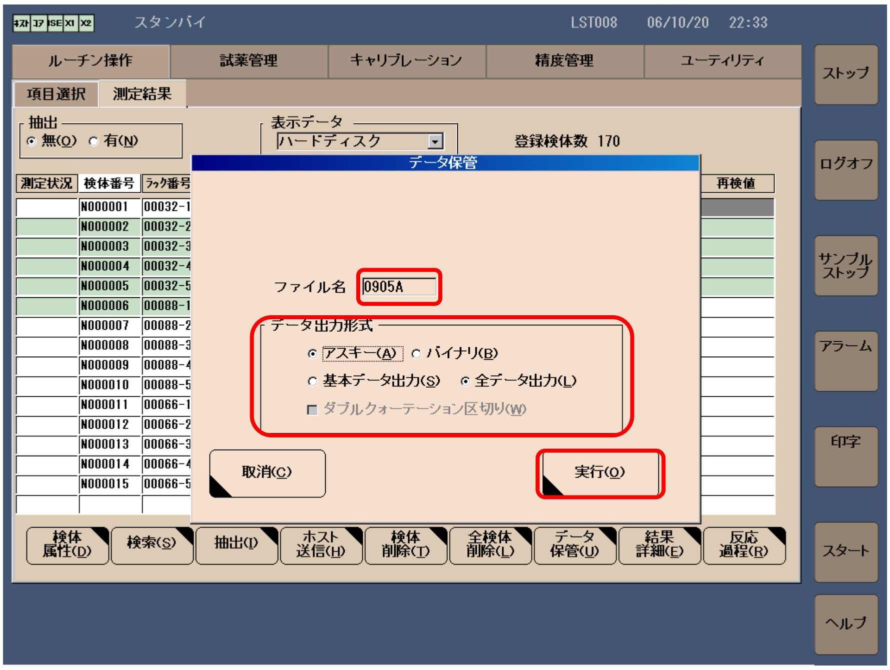
<LABOSPECT008 の場合>

1. ルーチン操作ジョブの測定結果画面を開きます。

測定結果画面

2. マウスをドラッグし、出力する検体範囲を選択します。QC 検体のみ選択してください。

3. ファンクションボタンの「データ保管」を選択すると、データ保管ウィンドウが表示されます。



データ保管ウィンドウ

4. ファイル名（最大 8 文字、拡張子は省略）を入力してください。

5. 「データ出力形式」で「アスキー」かつ「全データ出力」を選択します。

6. 実行ボタンをクリックします。保存したファイルの拡張子は「.ASC」となります。

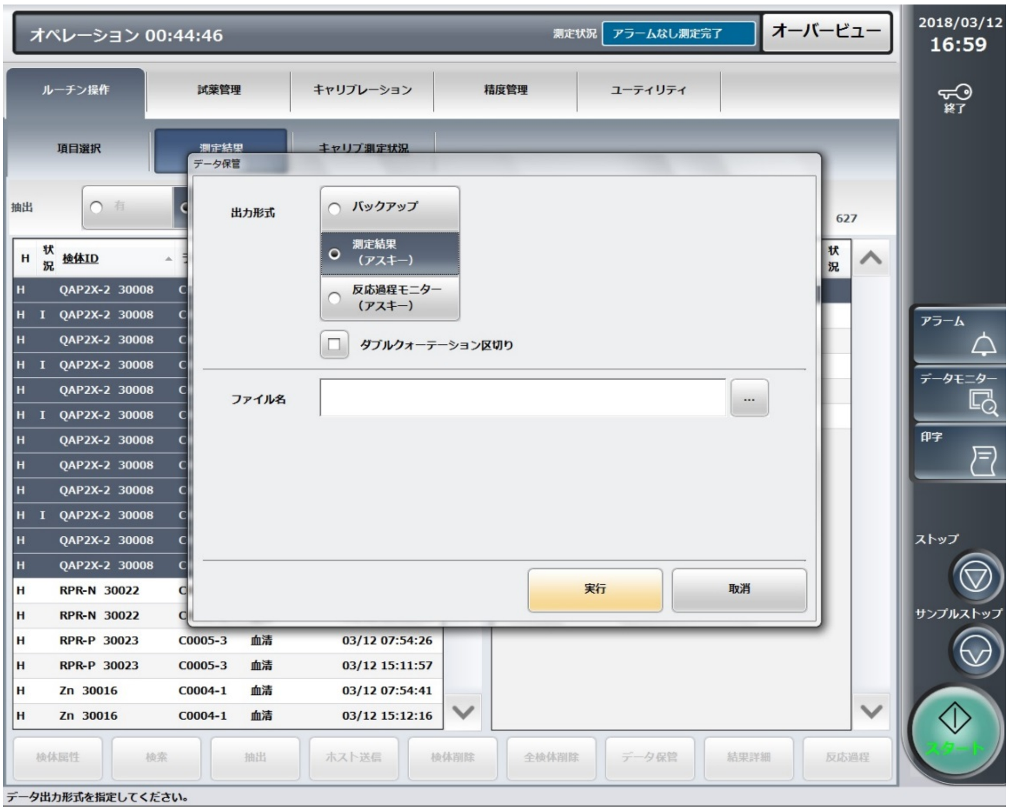
<LABOSPECT008αの場合>

1．外部メディアとして　DVD-RAM、あるいは USB メモリをご利用ください。

2．データの保存方法　 (ハードディスク内の測定データをバックアップ用の外部メディアに複写します。)

（1）“測定結果画面”で書き込みを行う検体範囲をドラッグして選択します。

（2）アイテムメニューの“データ保管”を選択します。（データ保管ウインドウが開きます）。



（3）【ファイル名】に保存するフォルダおよびファイル名を入力します。

直接外部メディアのドライブ名称から入力するか、[…]ボタンを押下して入力します。

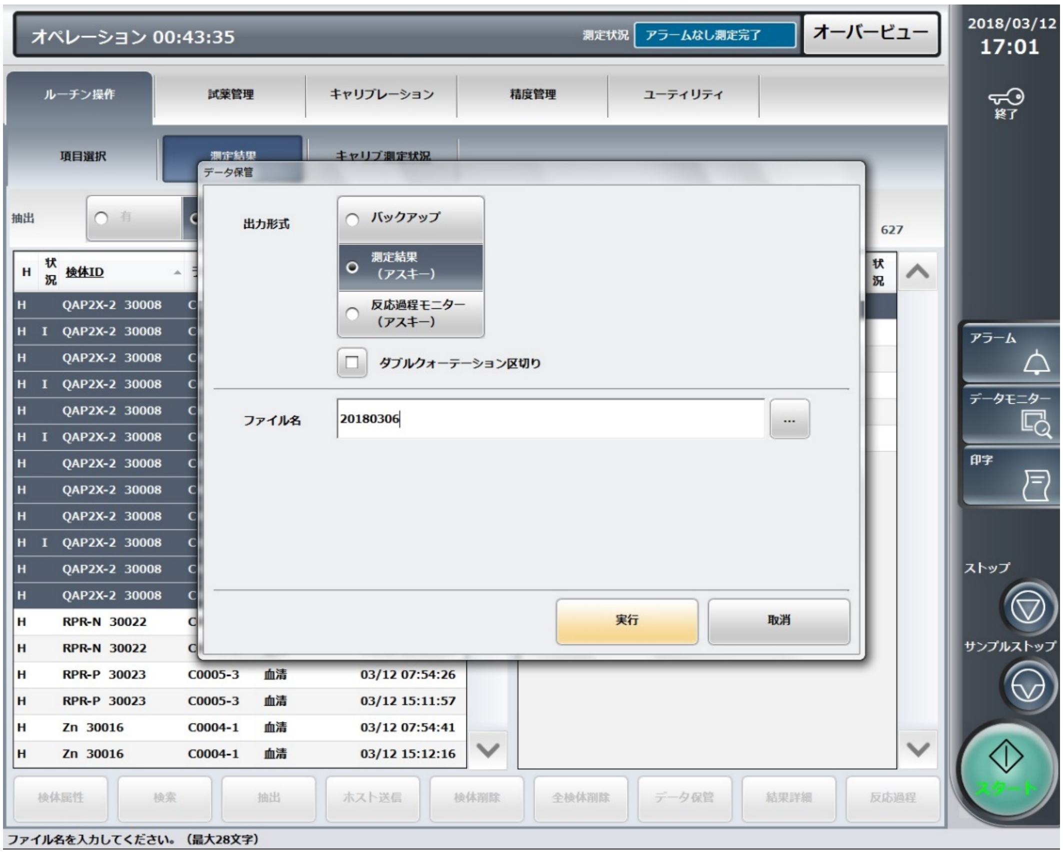
(ファイルの拡張子は[.csv]固定です)

（4）【出力形式】で“測定結果（アスキー）”を選択します。

（5）【出力形式】で“ダブルクォーテーション区切り”を選択できます。

“検体ＩＤ”または“コメント”内の情報に“,(カンマ)”を使用している場合は有効にします。

ただし、本区切り設定は、”, （カンマ）“を含む文字列を一連の文字列として扱えるようにする機能であり、区切り文字がダブルクォーテーションになって出力されるわけではありません。



<3100/3500 の場合>

3100/3500 自動分析装置の操作部において、一般のパーソナルコンピュータにて読み取り可能な形式で、外部メディアにデータを保存する手順

＜ご用意いただくもの＞

CF カードリーダ

データの保存方法

ハードディスク内の測定データをバックアップ用のメディア（CF）に CSV で複写します。

※書き込みの詳細は「取扱説明書（Ⅱ）5.3 CF による保存・読み出し」を参照願います。

（1）“メニュー─測定結果”で書き込みを行う検体(コントロール検体)を選択します。

（2）“テキスト書込”を選択します。

（3）“保管データ”を選択します。

測定結果 ： データ指定で“測定結果”を選択します。

（4）検体番号（もしくはチャンネル範囲）を入力します。

（5）ファイル名に保存ファイル名を入力します。

ファイル名は最大 8 文字、拡張子は省略してください。(拡張子は[.csv]固定です)

（6）“実行”を選択します。

注意事項

メディア（CF）の取り外す際は“CF 取り外し”を実行してください。

“CF 取り外し”を実行しないで取り外した場合は、メディアのデータを破損して しまう場合があります。

ロット番号管理(HT)

ロット番号情報の特定にはいくつかの方法があります。

1. ホーム ＞ データ取り込み
   2. 分析装置の機種名、バージョン名、単位種別を選択して、[ファイル選択]をクリックします。
   3. ファイル選択画面が表示されます。データの保存先を指定して[OK]をクリックしてください。
   4. 未登録のロット情報が存在する場合、「ロット番号管理」画面が表示されます。

特定方法、ロット番号情報は取り込みデータから自動で判断されますので、変更しないでください。

ロット番号管理

機種名 7600<P>　バージョン 7600式

保存　新規ロット番号追加

No		特定方法	ロット番号情報	コントロール	ロット番号	除外コード	最終更新日時
1	削除	サンプルID運用	QAP 1X	QAP-Trol	1QL-115	☐	2014-10-01 13:39:36
2	削除	サンプルID運用	QAP 2X	QAP-Trol	2QL-215	☐	2014-10-01 13:39:36
3	削除	サンプルID運用	111222001			☑	2014-10-01 13:39:36
4	削除	位置情報運用	3001+1			☑	2014-10-01 13:39:36
5	削除	位置情報運用	3001+2			☑	2014-10-01 13:39:36

   5. 使用するロット番号情報に対応する[コントロール]を選択してください。
   6. [ロット番号]を選択してください。ロット番号は「レベル＋試料のビンラベルに記載してある製造番号（例： 1 QL-109）」となります。
   7. 「データ取り込み」画面で取り込む必要がないロット番号情報は[除外コード]にチェックを入れてください。

（上図は手順 5～7 が完了した画面を示します）

   8. 入力完了後、[保存]ボタンをクリックしてください。
   9. 確認画面が表示されます。[OK]をクリックしてください。
   10. 画面左上の データ取り込み をクリックし、「データ取り込み」画面に戻ります。

問い合わせ窓口一覧(HT)

1. QC Register システムに関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にて対応いたします。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
シスメックス株式会社 カスタマーサポートセンター	(電話) 0120-413-034 (FAX) 078-992-3373	9:00～17:35 平日(就業日に限る)

2. 自動分析装置に関する問い合わせは、メーカーのサービス窓口にて対応いたします。

TBA シリーズの機種別操作

測定項目管理(TBA)

<TBA-200FR NEO の場合>

<TBA-120FR、2000FR、1500FR、AccuteRX（400FR）の場合>

<TBA-40FR ACCUTE の場合>

<TBA-C4000、C8000、C16000 の場合>

<TBA-FX8 の場合>

QC データの保存方法(TBA)

<TBA-200FR NEO の場合>

<TBA-120FR、2000FR、1500FR、AccuteRX（400FR）の場合>

<TBA-40FR ACCUTE の場合>

<TBA-C4000、C8000、C16000 の場合>

<TBA-FX8 の場合>

ロット番号管理(TBA)

問い合わせ窓口一覧(TBA)

測定項目管理(TBA)

<TBA-200FR NEOの場合>

[測定項目情報]にはTBA-200FR NEOで設定されている「項目名」（半角6文字以内）を正確に入力してください。

「項目名」の確認方法は、QCデータを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

※「項目名」は、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置からQC Registerシステムにデータを取り込むことができません。

「項目名」の確認方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

<TBA-120FR、2000FR、1500FR、AccuteRX（400FR）の場合>

抽出するデータのタイプにより[測定項目情報]に入力する内容が異なります。

タイプA：「QC一覧」からデータをエクスポートする場合

タイプB：「データベース」からコントロールデータをエクスポートする場合

タイプAの場合

[測定項目情報]にはTBA-120FR 、2000FR 、1500FR 、AccuteRX（400FR）で設定されている「依頼コード」（1～9999）を正確に入力してください。

「依頼コード」の確認方法は、QCデータを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

タイプBの場合

[測定項目情報]にはTBA-120FR 、2000FR 、1500FR 、AccuteRX（400FR）で設定されている項目名 (例　TP,ASTなど)を正確に入力してください。

項目名は出力したcsvファイルをエクセルで読み込むことにより確認できます。なお、γ-GTの「γ」ようなギリシャ文字は使用できません。

※[測定項目情報]は、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置からQC Registerシステムにデータを取り込むことができません。「依頼コード」の確認方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

<TBA-旧Acuute（40FR）の場合>

[測定項目情報]にはTBA- Acuute（40FR）で設定されている「項目ID」（1～74）を正確に入力してください。

「項目ID」の確認方法は、QCデータを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

※「項目 ID」は、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置から QC Register システムにデータを取り込むことができません。

「項目 ID」の確認方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

<TBA-c4000、c8000、c16000 の場合>

[測定項目情報]には TBA-c シリーズで設定されている「アッセイ番号」（項目番号）を正確に入力してください。

「アッセイ番号」の確認方法は、QC データを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

※「アッセイ番号」（項目番号）は、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置から QC Register システムにデータを取り込むことができません。

「アッセイ番号」（項目番号）の確認方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

<TBA-FX8 の場合>

抽出するデータのタイプにより[測定項目情報]に入力する内容が異なります。

タイプ A：「QC 一覧」からデータをエクスポートする場合

タイプ B：「データベース」からコントロールデータをエクスポートする場合

タイプ A の場合

[測定項目情報]には TBA-FX8 で設定されている「依頼コード」（1～9999）を正確に入力してください。

「依頼コード」の確認方法は、QC データを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

タイプ B の場合

[測定項目情報]には TBA-FX8 で設定されている項目名 (例　TP,AST など)を正確に入力してください。

項目名は出力した csv ファイルをエクセルで読み込むことにより確認できます。なお、γ-GT の「γ」ようなギリシャ文字は使用できません。

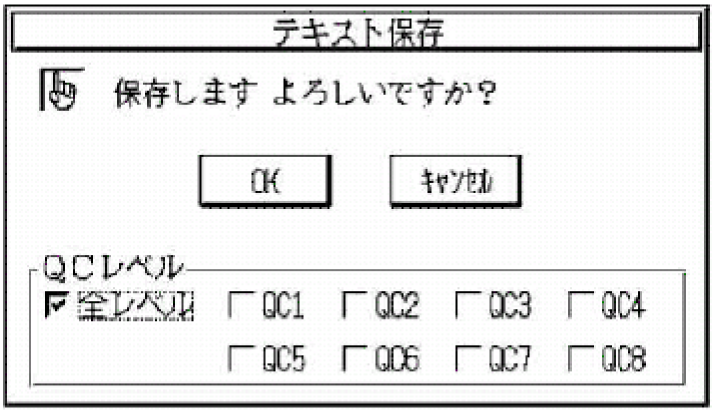
※「依頼コード」は、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置から QC Register システムにデータを取り込むことができません。

「依頼コード」の確認方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

QC データの保存方法(TBA)

<TBA-200FR NEO の場合>

1. 「QC 一覧」ボタンをクリックすると、「コントロール QC 一覧－日内－」画面が表示されます。
2. 出力する項目を選択してください。（複数選択可）
3. 「テキスト保存」ボタンをクリックすると、「テキスト保存」画面が表示されます。
4. ドライブはフロッピーディスクを選択し、ファイル名を入力してください。
5. OK ボタンをクリックすると、「テキスト保存」画面が表示されます。



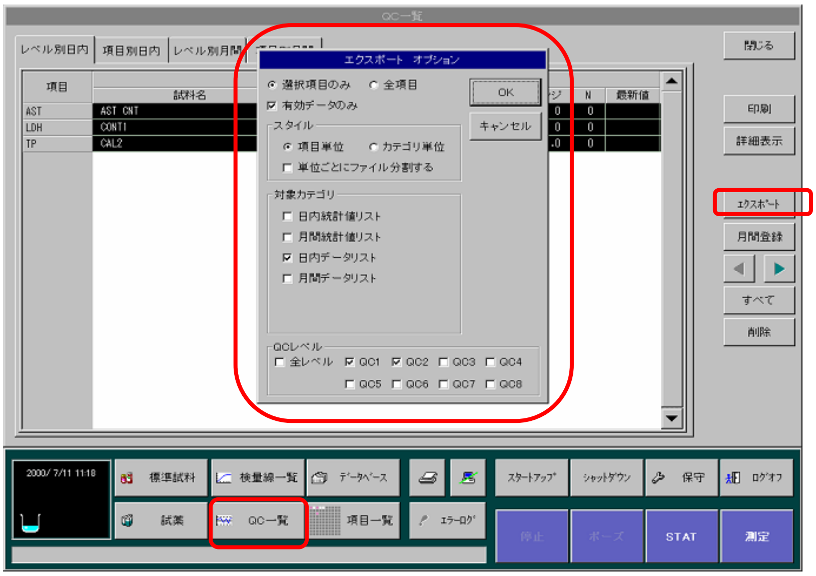
テキスト保存画面

6. QC レベルを選択して、OK ボタンをクリックしてください。

<TBA-120FR 、2000FR 、1500FR 、AccuteRX（400FR）120FR の場合>

タイプ A：「QC 一覧」からデータをエクスポートする場合

1. 「QC 一覧」ボタンをクリックすると、「QC 一覧」画面が表示されます。
2. 「エクスポート」ボタンをクリックすると、「エクスポートオプション」画面が表示されます。



QC 一覧画面

3. 項目は選択項目のみ、全項目のいずれかを選択してください。

   有効データだけを出力する場合は、有効データのみにチェックを入れてください。

4. スタイルは項目単位を選択してください。

5. 対象カテゴリは**日内データリスト**を選択してください。

（QC Register では日内データリストのみ対象になります。）

6. QC レベルを選択して、OK ボタンをクリックしてください。

CSV ファイルを「メモ帳」で開いた場合の例　日内データリストにデータ(赤枠内)があることを確認してください

```
"項目ＩＤ","項目コード","項目名"
1,"TP",""
"日内データリスト"
"ＱＣ番号","試料名","表示値","平均値","S.D.","C.V.","レンジ","有効数","総数"
1,"QAPトロール-1","4.611","  4.589","  0.000","  0.00","  0.00","  1","  1"
"データ","エラー","測定日時","無効"
"   4.59","","2016/ 1/28 08:11:55",""
"ＱＣ番号","試料名","表示値","平均値","S.D.","C.V.","レンジ","有効数","総数"
2,"QAPトロール-2","7.370","  7.403","  0.000","  0.00","  0.00","  1","  1"
"データ","エラー","測定日時","無効"
"   7.40","","2016/ 1/28 08:13:03",""
"項目ＩＤ","項目コード","項目名"
2,"ALB",""
"日内データリスト"
"ＱＣ番号","試料名","表示値","平均値","S.D.","C.V.","レンジ","有効数","総数"
1,"QAPトロール-1","2.855","  2.805","  0.002","  0.06","  0.00","  2","  2"
"データ","エラー","測定日時","無効"
"   2.81","","2016/ 1/28 14:25:17",""
"   2.80","","2016/ 1/28 08:11:55",""
"ＱＣ番号","試料名","表示値","平均値","S.D.","C.V.","レンジ","有効数","総数"
2,"QAPトロール-2","4.522","  4.455","  0.023","  0.52","  0.03","  2","  2"
"データ","エラー","測定日時","無効"
```

CSV ファイルをエクセルで開いた場合の例　日内データリストにデータ(赤枠内)があることを確認してください

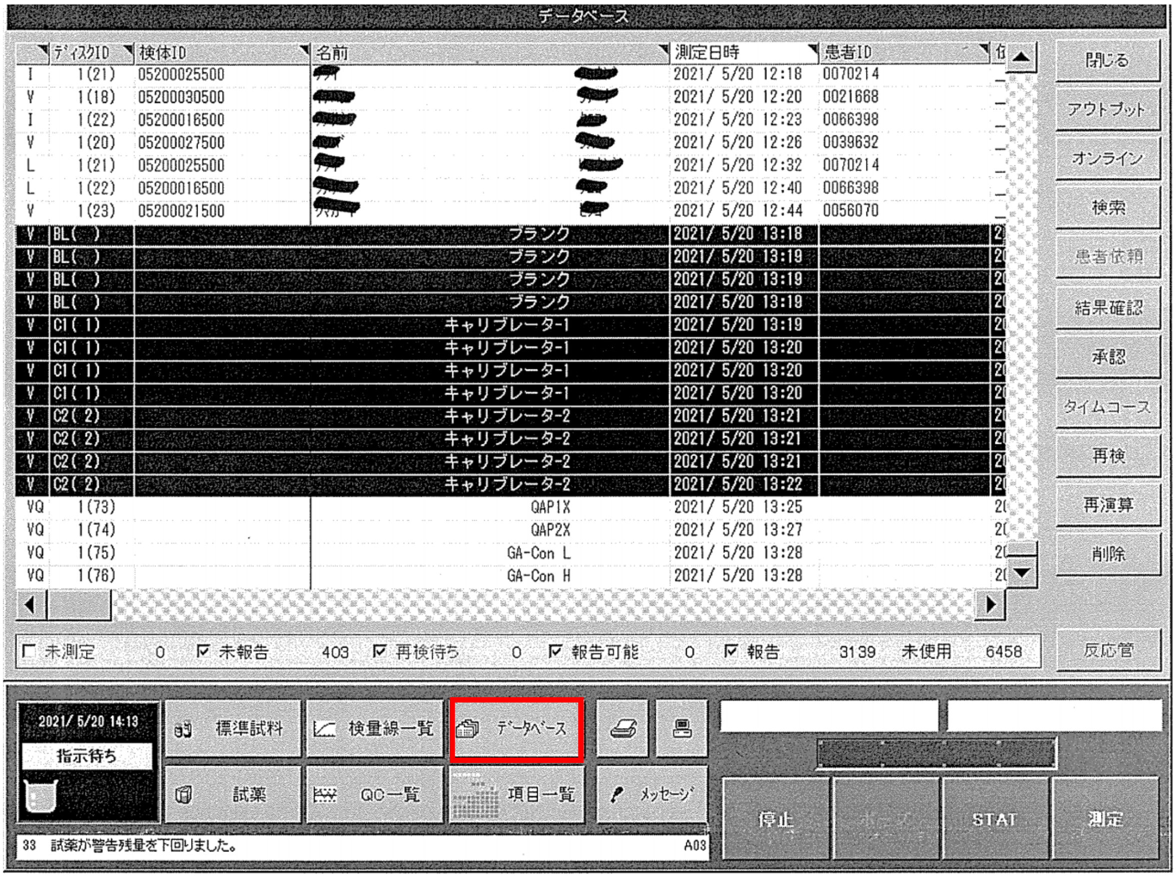
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	項目ＩＤ	項目コード	項目名						
2	1		LDH						
3	日内データリスト								
4	ＱＣ番号	試料名	表示値	平均値	S.D.	C.V.	レンジ	有効数	総数
5	1	QAP-1	155	156.5	1.3	0.83	2	2	2
6	データ	エラー	測定日時	無効					
7	156		2021/3/31 8:51						
8	157		2021/3/30 15:13						
9	ＱＣ番号	試料名	表示値	平均値	S.D.	C.V.	レンジ	有効数	総数
10	2	QAP-2	390	392.4	1.4	0.35	2	2	2
11	データ	エラー	測定日時	無効					
12	391		2021/3/31 8:53						
13	393		2021/3/30 15:15						
14	項目ＩＤ	項目コード	項目名						
15	2	AST							
16	日内データリスト								
17	ＱＣ番号	試料名	表示値	平均値	S.D.	C.V.	レンジ	有効数	総数
18	1	QAP-1	40	40.2	0.4	0.89	1	9	9
19	データ	エラー	測定日時	無効					
20	40		2021/4/8 8:40						
21	41		2021/4/7 13:51						
22	40		2021/4/7 8:42						
23	40		2021/4/6 8:50						
24	40		2021/4/5 8:41						

【ご注意】 機器シャットダウン時に、「日内 QC データベース削除」の欄にチェックをいれている場合は、QC データが削除されますので、シャットダウン前にデータを出力するか、「日内 QC データベース削除」の欄のチェックを外して下さい。

タイプ B：「データベース」からコントロールデータをエクスポートする場合

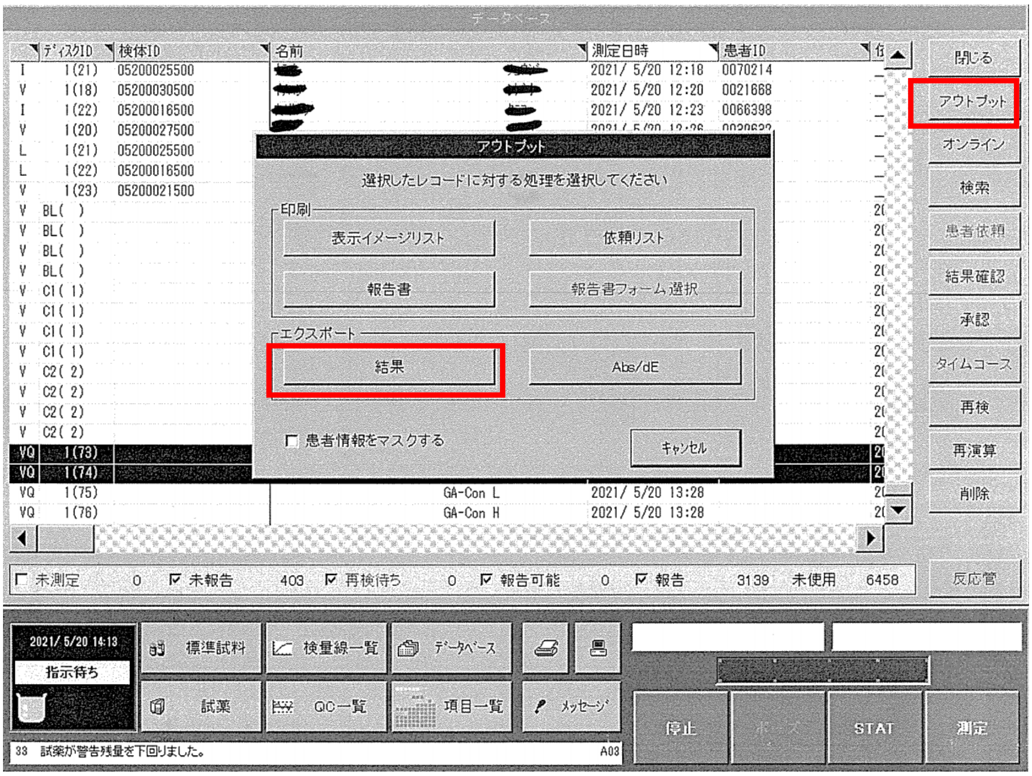
日内データが大量に保存されており、通常のファイルでは容量が超過してしまう場合はこちらを利用して下さい。
※以下の画面は Accute-RX の画面をキャプチャーしたものです。機種によって少し異なる場合がありますが、操作内容は基本的に同じです。

1． 画面の下部の「データベース」を開き、コントロールを選択します

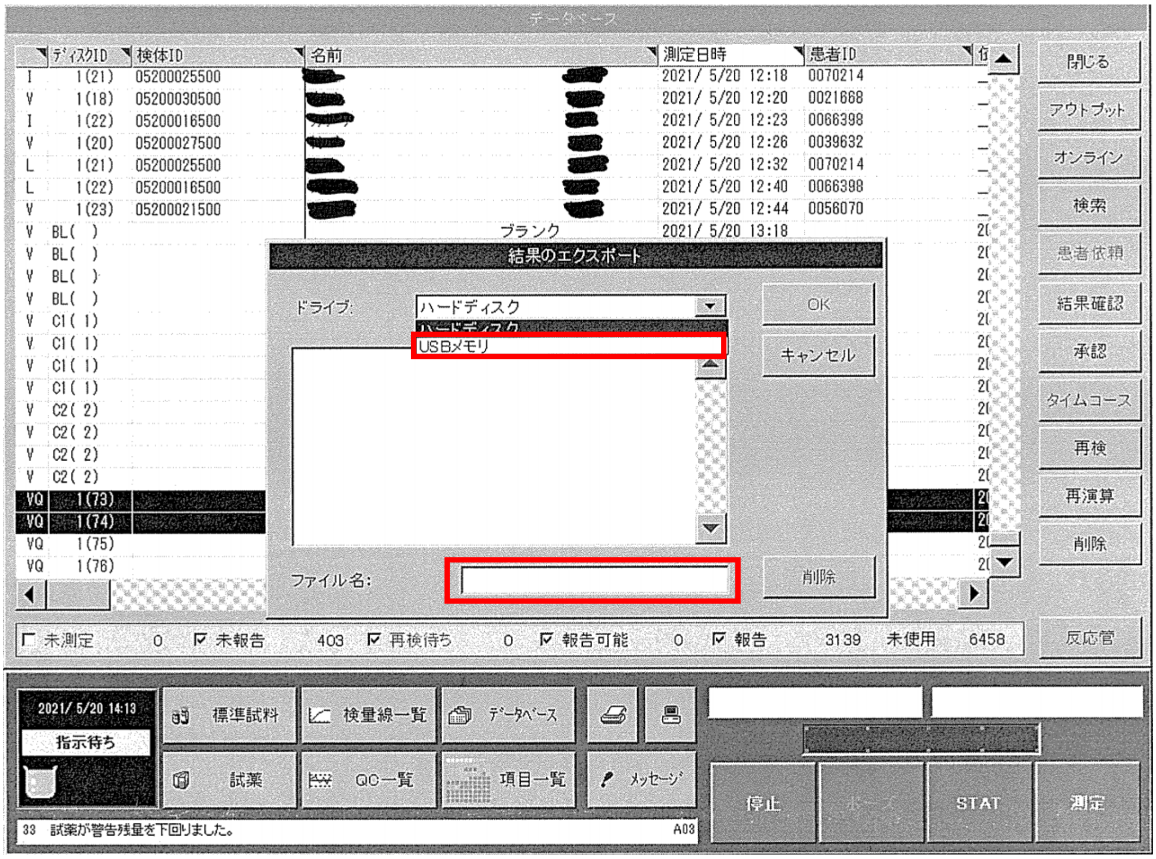


※上図ではブランクとキャリブレータが選択されていますが、QAP1X,QAP2X を選択して下さい。

2．画面右側の「アウトプット」を押すとダイアログボックスが開くので「結果」を選択します。

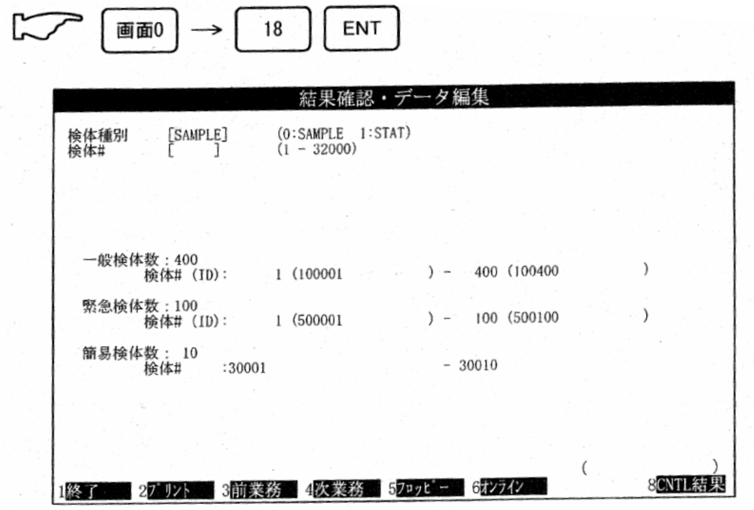


3．エクスポート画面で"USB メモリ"を選択し、ファイル名を入力して、"OK"をタッチして完了です。



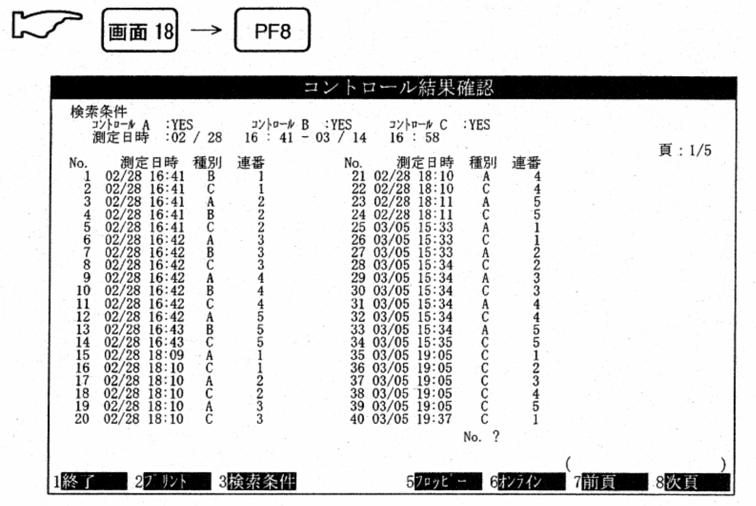
<TBA-旧 Acuute（40FR） の場合>

1. メイン画面（画面 0）から「18」を入力し「ENT」キーを押すと、「結果確認・データ編集」画面が表示されます。



結果確認・データ編集画面

2. 「PF8」キーを押すと、「コントロール結果確認」画面が表示されます。



No.	測定日時	種別	連番	No.	測定日時	種別	連番
1	02/28 16:41	B	1	21	02/28 18:10	A	4
2	02/28 16:41	C	1	22	02/28 18:10	C	4
3	02/28 16:41	A	2	23	02/28 18:11	A	5
4	02/28 16:41	B	2	24	02/28 18:11	C	5
5	02/28 16:41	C	2	25	03/05 15:33	A	1
6	02/28 16:42	A	3	26	03/05 15:33	C	1
7	02/28 16:42	B	3	27	03/05 15:33	A	2
8	02/28 16:42	C	3	28	03/05 15:34	C	2
9	02/28 16:42	A	4	29	03/05 15:34	A	3
10	02/28 16:42	B	4	30	03/05 15:34	C	3
11	02/28 16:42	C	4	31	03/05 15:34	A	4
12	02/28 16:42	A	5	32	03/05 15:34	C	4
13	02/28 16:43	B	5	33	03/05 15:34	A	5
14	02/28 16:43	C	5	34	03/05 15:35	C	5
15	02/28 18:09	A	1	35	03/05 19:05	C	1
16	02/28 18:10	C	1	36	03/05 19:05	C	2
17	02/28 18:10	A	2	37	03/05 19:05	C	3
18	02/28 18:10	C	2	38	03/05 19:05	C	4
19	02/28 18:10	A	3	39	03/05 19:05	C	5
20	02/28 18:10	C	3	40	03/05 19:37	C	1

コントロール結果確認画面

3. 「PF 5」キーを押してください。

4. ファイル名を指定し、「ENT」キーを押すと、当日のコントロールデータが FD（フロッピーディスク）に保存されます。

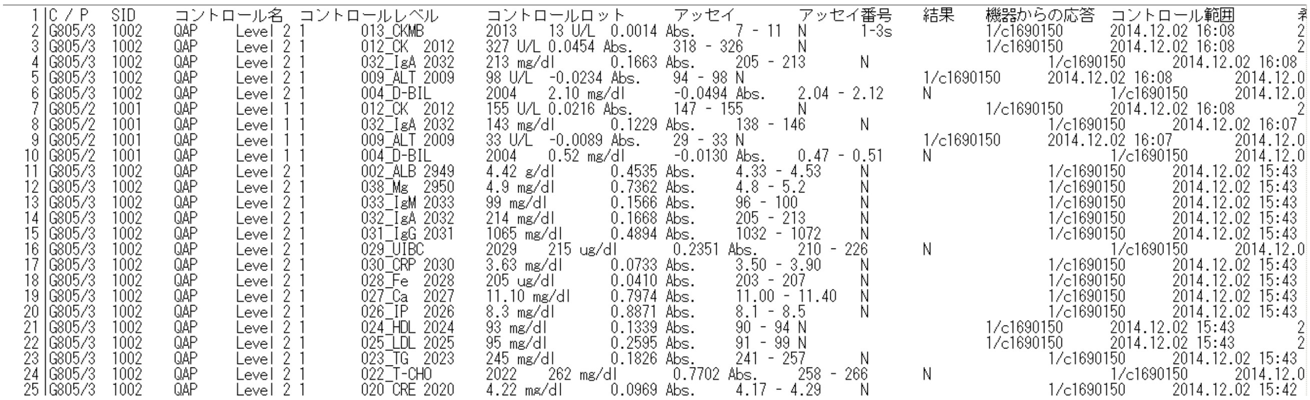
<TBA-c4000、c8000、c16000 の場合>

1. コンソール（SCC）から「QC-Cal」ボタンをクリックしてください。

リリース済み QC 結果画面

2. リリース済み QC 結果を選択すると、「リリース済み QC 結果」画面が表示されます。
3. 書き込み可能な CD-R を SCC にセットしてください。
4. アーカイブするコントロールデータを SCC 画面で選択（反転表示）してください。全データを選択する場合は、「F2」キーを押してください。
5. 「F8」キーを押すと、「QC 結果のアーカイブ」ウィンドウが表示されます。
   CD に保存する結果を「リリース済み QC 結果」にも残す場合は、「アーカイブ後にレコードを削除」チェックボックスの選択を解除します。（必要に応じて）
6. OK を選択すると、選択されたコントロールデータが CD-R に保存されます。

コントロールデータをメモ帳で開いた場合の見本



```
 1 C / P   SID   コントロール名  コントロールレベル  コントロールロット  アッセイ  アッセイ番号  結果  機器からの応答  コントロール範囲
 2 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  013_CKMB  2013  13 U/L  0.0014 Abs.  7 - 11  N  1-3s  1/c1690150  2014.12.02 16:08  2
 3 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  012_CK  2012  327 U/L 0.0454 Abs.  318 - 326  N  1/c1690150  2014.12.02 16:08  2
 4 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  032_IgA 2032  213 mg/dl  0.1663 Abs.  205 - 213  N  1/c1690150  2014.12.02 16:08
 5 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  009_ALT 2009  98 U/L  -0.0234 Abs.  94 - 98 N  1/c1690150  2014.12.02 16:08  2014.12.0
 6 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  004_D-BIL  2004  2.10 mg/dl  -0.0494 Abs.  2.04 - 2.12  N  1/c1690150  2014.12.0
 7 G805/2  1001  QAP  Level 1 1  012_CK  2012  155 U/L 0.0216 Abs.  147 - 155  N  1/c1690150  2014.12.02 16:08  2
 8 G805/2  1001  QAP  Level 1 1  032_IgA 2032  143 mg/dl  0.1229 Abs.  138 - 146  N  1/c1690150  2014.12.02 16:07
 9 G805/2  1001  QAP  Level 1 1  009_ALT 2009  33 U/L  -0.0089 Abs.  29 - 33 N  1/c1690150  2014.12.02 16:07  2014.12.0
10 G805/2  1001  QAP  Level 1 1  004_D-BIL  2004  0.52 mg/dl  -0.0130 Abs.  0.47 - 0.51  N  1/c1690150  2014.12.0
11 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  002_ALB 2949  4.42 g/dl  0.4535 Abs.  4.33 - 4.53  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
12 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  038_Mg  2950  4.9 mg/dl  0.7362 Abs.  4.8 - 5.2  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
13 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  033_IgM 2033  99 mg/dl  0.1566 Abs.  96 - 100  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
14 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  032_IgA 2032  214 mg/dl  0.1668 Abs.  205 - 213  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
15 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  031_IgG 2031  1065 mg/dl  0.4894 Abs.  1032 - 1072  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
16 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  029_UIBC  2029  215 ug/dl  0.2351 Abs.  210 - 226  N  1/c1690150  2014.12.0
17 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  030_CRP 2030  3.63 mg/dl  0.0733 Abs.  3.50 - 3.90  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
18 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  028_Fe  2028  205 ug/dl  0.0410 Abs.  203 - 207  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
19 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  027_Ca  2027  11.10 mg/dl  0.7974 Abs.  11.00 - 11.40  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
20 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  026_IP  2026  8.3 mg/dl  0.8871 Abs.  8.1 - 8.5  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
21 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  024_HDL 2024  93 mg/dl  0.1339 Abs.  90 - 94 N  1/c1690150  2014.12.02 15:43  2
22 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  025_LDL 2025  95 mg/dl  0.2595 Abs.  91 - 99 N  1/c1690150  2014.12.02 15:43  2
23 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  023_TG  2023  245 mg/dl  0.1826 Abs.  241 - 257  N  1/c1690150  2014.12.02 15:43
24 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  022_T-CHO  2022  262 mg/dl  0.7702 Abs.  258 - 266  N  1/c1690150  2014.12.0
25 G805/3  1002  QAP  Level 2 1  020_CRE 2020  4.22 mg/dl  0.0969 Abs.  4.17 - 4.29  N  1/c1690150  2014.12.02 15:42
```

【ご注意】

取り込み可能な QC データのファイルサイズは最大 1MB 以内です。1MB を超えた場合は、ファイルの分割が必要です。例えば、月の前半と後半の 2 つに分けてください。

<TBA-FX8 の場合>

タイプＡ：「QC 一覧」からデータをエクスポートする場合

(1)「ＱＣ一覧」を開く

(2)「レベル別日内」のタブページを開く

(3)ＵＳＢメモリをＵＳＢポートに挿す

(4)「エクスポート」ボタンをクイック

(5)「エクスポート オプションが開きます。

(6)以下のとおり、「エクスポートオプション画面」でエクスポートする項目を選択する。

①「全項目」を選択

②スタイルは、「項目単位」を選択

③対象カテゴリは、「日内データリスト」を選択

④ＱＣレベルは、エクスポートするＱＣレベルを選択

⑤日内ＱＣデータは、エクスポートするモジュールを選択

⑥ラインは、エクスポートするラインを選択

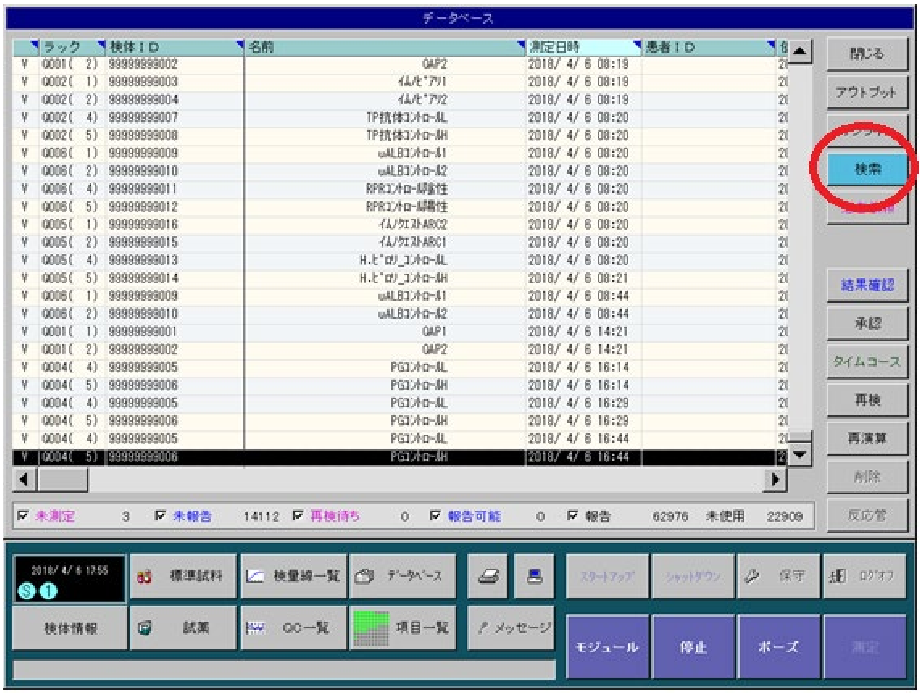
⑦日内ＱＣ詳細は、エクスポートするモジュールを選択

(7)上記に従い「エクスポートオプション画面」でエクスポートする項目を選択したのち、「ＯＫ」ボタンを押します。

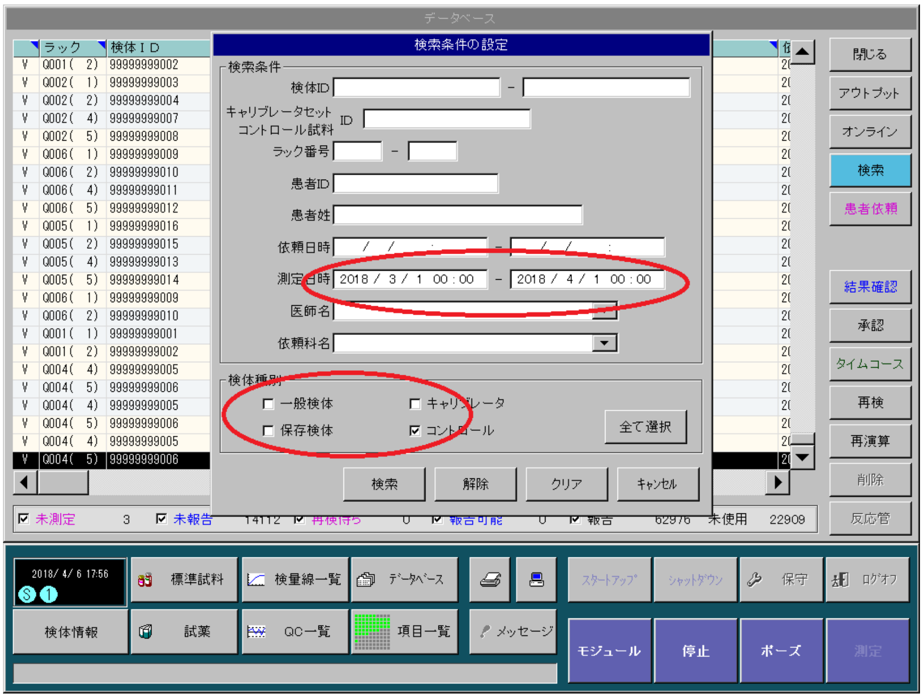
タイプＢ：「データベース」からコントロールデータをエクスポートする場合

日内データが大量に保存されており、通常のファイルでは容量が超過してしまう場合はこちらを利用して下さい。

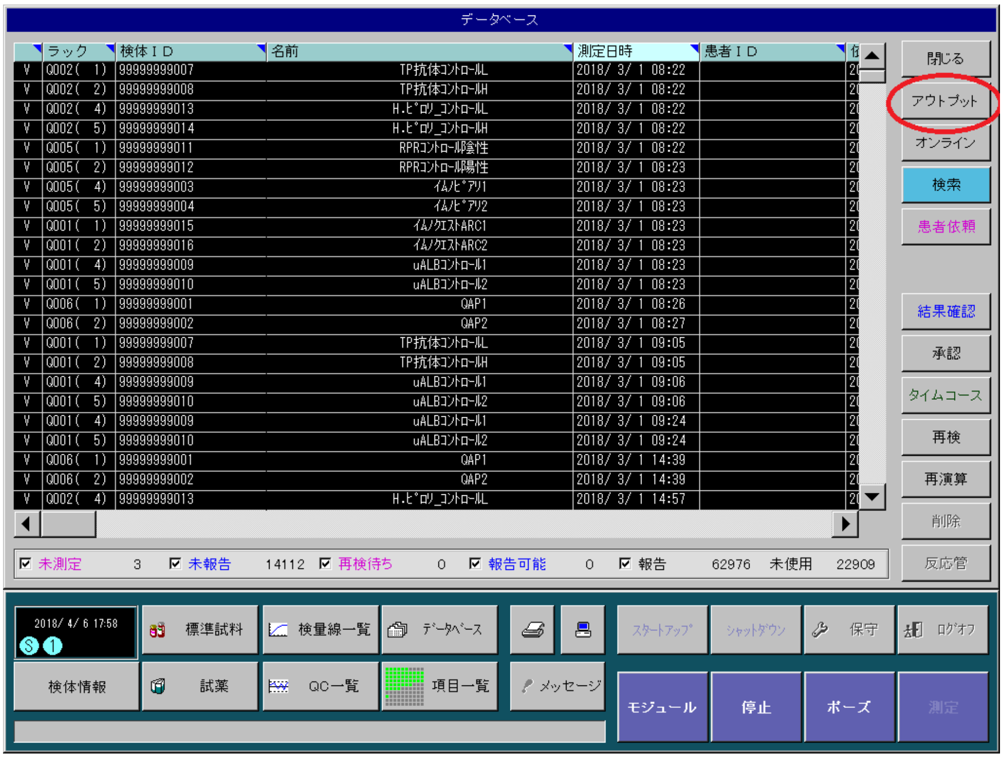
1．データベース画面にて “検索”をタッチする。



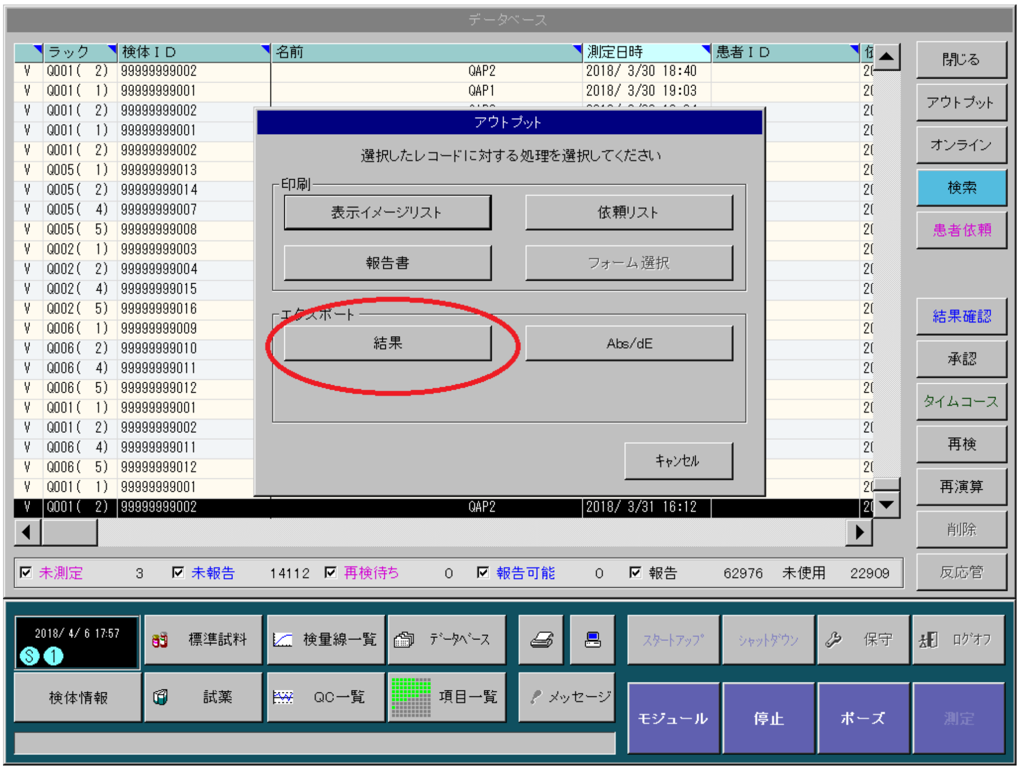
2． 検索画面にて検体種別 “コントロール”をチェックし、測定日時で範囲を指定する。



3． 表示されるデータベースから、落としたいデータを選択し、USB メモリを差し込んでから“アウトプット”をタッチする。

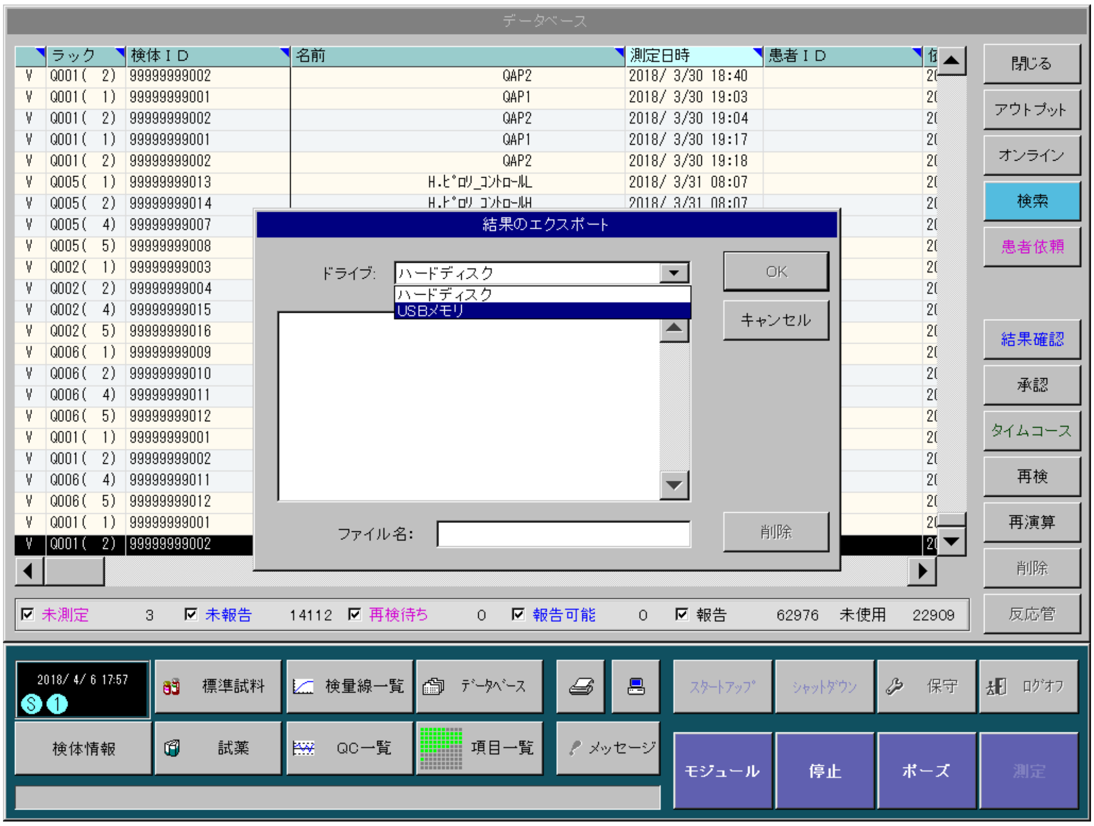


4．“結果”を選択。



5．エクスポート画面で“USB メモリ”を選択し。ファイル名を入力して、“OK”をタッチする。

USB メモリを取り外せるようにするで”OK”をタッチし USB メモリを取り外します。



ロット番号管理(TBA)

ロット番号情報の特定にはいくつかの方法があります。

機種名	特定方法（通常は 1 を選択、バーコード運用の場合 2 です）	
TBA-200FR NEO	1. QC レベル運用	2. 試料名運用
TBA-120FR	1. QC レベル運用	2. 試料名運用
TBA-2000FR	1. QC レベル運用	2. 試料名運用
TBA-40FR Accute	1. コントロール番号運用	
TBA-c4000、c8000、c16000	1. サンプル ID 運用	2. ラック運用
TBA-FX8	1. QC レベル運用	2. 試料名運用

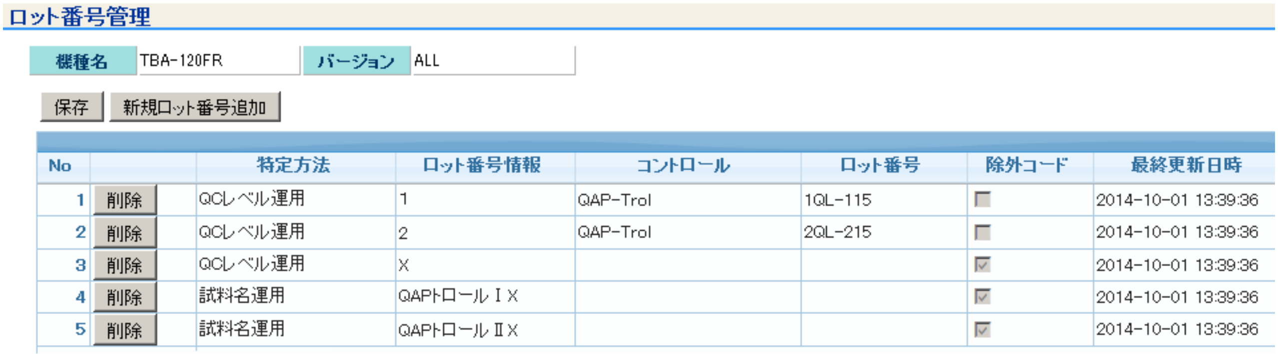
1.　ホーム　＞　データ取り込み
2. 分析装置の機種名、バージョン名、単位種別を選択して、[ファイル選択]をクリックします。

※バージョンの選択について

「QC 一覧」からデータをエクスポートした場合は 「ALL」 又は「ALL_yyyy/mm/dd」又は「ALL_mm/dd/yyyy」を選択してください。

「データベース」からコントロールデータをエクスポートした場合は 「DB_yyyymmdd」を選択してください。

3.　ファイル選択画面が表示されます。データの保存先を指定して[OK]をクリックしてください。
4.　未登録のロット情報が存在する場合、「ロット番号管理」画面が表示されます。
　特定方法、ロット番号情報は取り込みデータから自動で判断されますので、変更しないでください。



No		特定方法	ロット番号情報	コントロール	ロット番号	除外コード	最終更新日時
1	削除	QCレベル運用	1	QAP-Trol	1QL-115	☐	2014-10-01 13:39:36
2	削除	QCレベル運用	2	QAP-Trol	2QL-215	☐	2014-10-01 13:39:36
3	削除	QCレベル運用	X			☑	2014-10-01 13:39:36
4	削除	試料名運用	QAPトロール I X			☑	2014-10-01 13:39:36
5	削除	試料名運用	QAPトロール II X			☑	2014-10-01 13:39:36

5.　使用するロット番号情報に対応する[コントロール]を選択してください。
6.　[ロット番号]を選択してください。ロット番号は「レベル＋試料のビンラベルに記載してある製造番号（例： 1 QL-115） 」となります。
7.　「データ取り込み」画面で取り込む必要がないロット番号情報は[除外コード]にチェックを入れてください。
8.　入力完了後、[保存]ボタンをクリックしてください。
9.　確認画面が表示されます。[OK]をクリックしてください。
10.　画面左上の データ取り込み をクリックし、「データ取り込み」画面に戻ります。

問い合わせ窓口一覧(TBA)

1. QC Register システムに関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にて対応いたします。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
シスメックス株式会社 カスタマーサポートセンター	(電話) 0120-413-034 (FAX) 078-992-3373	9:00～17:35 平日(就業日に限る)

2. 自動分析装置に関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にてご確認下さい。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
東京 CL スクエア ※検体検査装置 研修センター	(電話) 03-6369-9648	

作成 2021/05/21

AU シリーズの機種別操作

測定項目管理(AU)

- <AU400、AU640 の場合>
- <AU680、AU480、AU5800 の場合>
- <AU2700、AU5400 の場合>
- <DxC 700AU の場合>

QC データの保存方法(AU)

- <AU400、AU640 の場合>
- <AU680、AU480、AU5800 の場合>
- <AU2700、AU5400 の場合>
- <DxC 700AU の場合>

ロット番号管理(AU)

問い合わせ窓口一覧(AU)

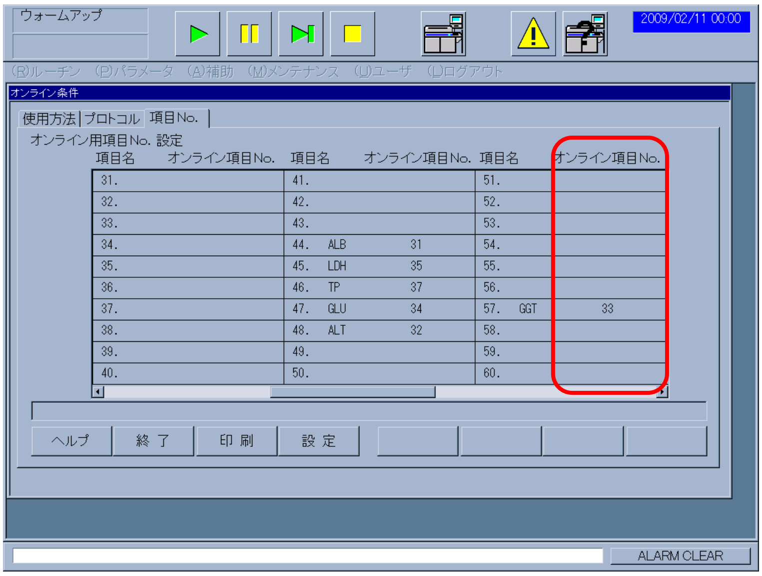
測定項目管理(AU)

<AU400、AU640 の場合>

[測定項目情報]には「オンライン項目番号」を入力してください。

オンライン項目番号の確認方法は以下の通りです。

1. ウォームアップ・スタンバイ・ストップのいずれかの状態で、メニューバーから、「パラメータ」→「オンライン条件」を選択してください。
2. 「オンライン条件」画面の「項目 No. 」タブを開きます。
3. 各項目に設定された「オンライン項目番号」が[測定項目情報]に相当します。



オンライン条件画面

<AU680、AU480、AU5800 の場合>

[測定項目情報]には「分析項目番号」を入力してください。

分析項目番号の確認方法は以下の通りです。

1. ウォームアップ・スタンバイ・ストップのいずれかの状態で、「メニュー」キーを押します。
2. メニューリストから「パラメータ」→「項目一般条件」→「項目名設定」画面を開きます。
3. 画面左端の「番号」が[測定項目情報]に相当します。

項目名設定画面

<AU2700、AU5400 の場合>

[測定項目情報]には「オンライン項目番号」を入力してください。

オンライン項目番号の確認方法は以下の通りです。

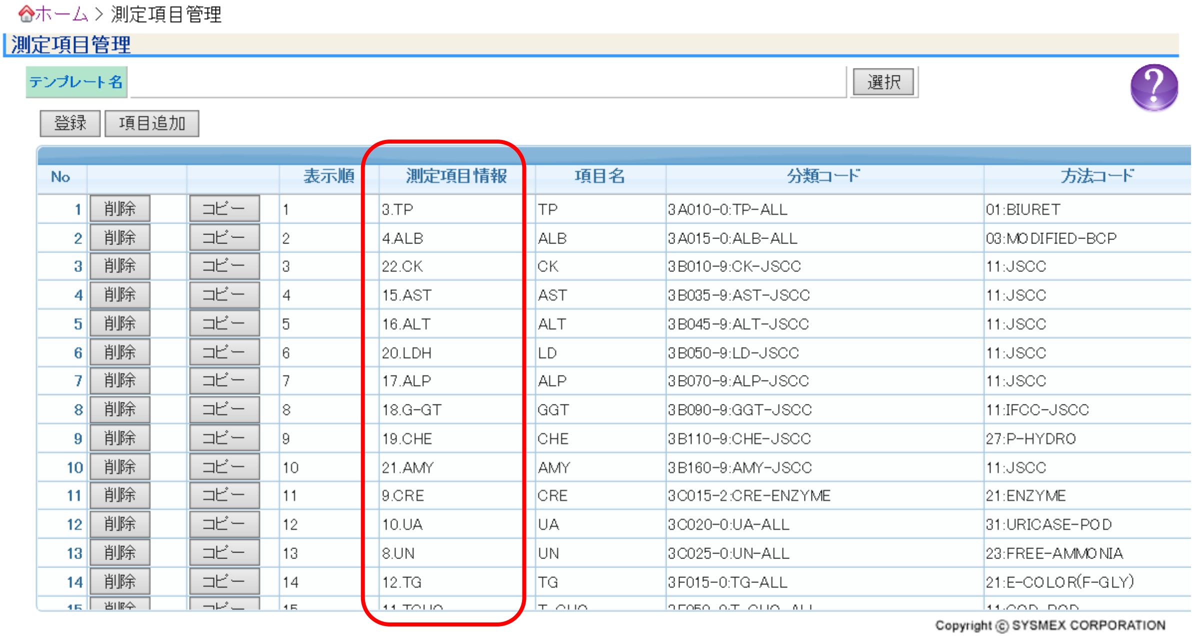
1. ウォームアップ・スタンバイ・ストップのいずれかの状態で、メニューバーから、「パラメータ」→「オンライン条件」を選択してください。
2. 「オンライン条件」画面の「項目 No. 」タブを開きます。
3. 各項目に設定された「オンライン項目番号」が[測定項目情報]に相当します。

項目名設定画面

<DxC 700AU の場合>

[測定項目情報]には Copy to disk 画面の「3.TP」などの名称を入力してください。

入力例



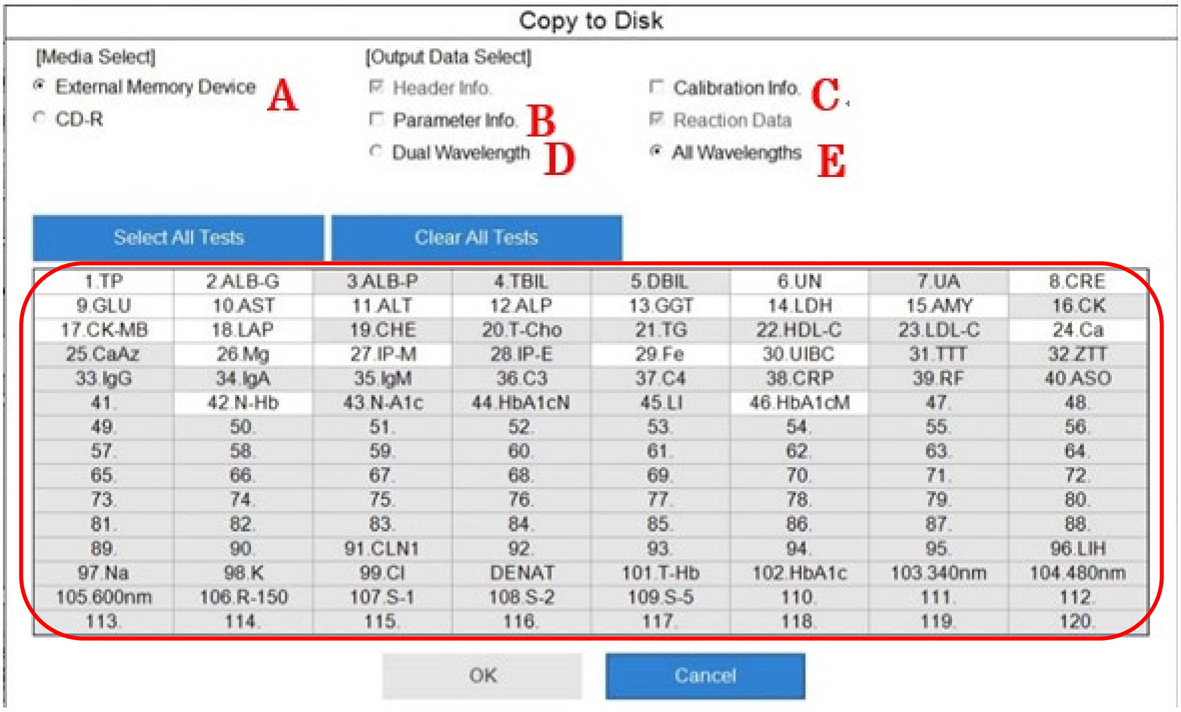
No			表示順	測定項目情報	項目名	分類コード	方法コード
1	削除	コピー	1	3.TP	TP	3A010-0:TP-ALL	01:BIURET
2	削除	コピー	2	4.ALB	ALB	3A015-0:ALB-ALL	03:MODIFIED-BCP
3	削除	コピー	3	22.CK	CK	3B010-9:CK-JSCC	11:JSCC
4	削除	コピー	4	15.AST	AST	3B035-9:AST-JSCC	11:JSCC
5	削除	コピー	5	16.ALT	ALT	3B045-9:ALT-JSCC	11:JSCC
6	削除	コピー	6	20.LDH	LD	3B050-9:LD-JSCC	11:JSCC
7	削除	コピー	7	17.ALP	ALP	3B070-9:ALP-JSCC	11:JSCC
8	削除	コピー	8	18.G-GT	GGT	3B090-9:GGT-JSCC	11:IFCC-JSCC
9	削除	コピー	9	19.CHE	CHE	3B110-9:CHE-JSCC	27:P-HYDRO
10	削除	コピー	10	21.AMY	AMY	3B160-9:AMY-JSCC	11:JSCC
11	削除	コピー	11	9.CRE	CRE	3C015-2:CRE-ENZYME	21:ENZYME
12	削除	コピー	12	10.UA	UA	3C020-0:UA-ALL	31:URICASE-POD
13	削除	コピー	13	8.UN	UN	3C025-0:UN-ALL	23:FREE-AMMONIA
14	削除	コピー	14	12.TG	TG	3F015-0:TG-ALL	21:E-COLOR(F-GLY)

DxC 700AU での項目情報の確認方法は以下の通りです。

① 「結果出力」アイコンから「サンプルマネージャ」を選択してください。

（メニューリストからも同様の操作が可能です。）

② 「Copy to Disk」画面の項目情報で確認してください。



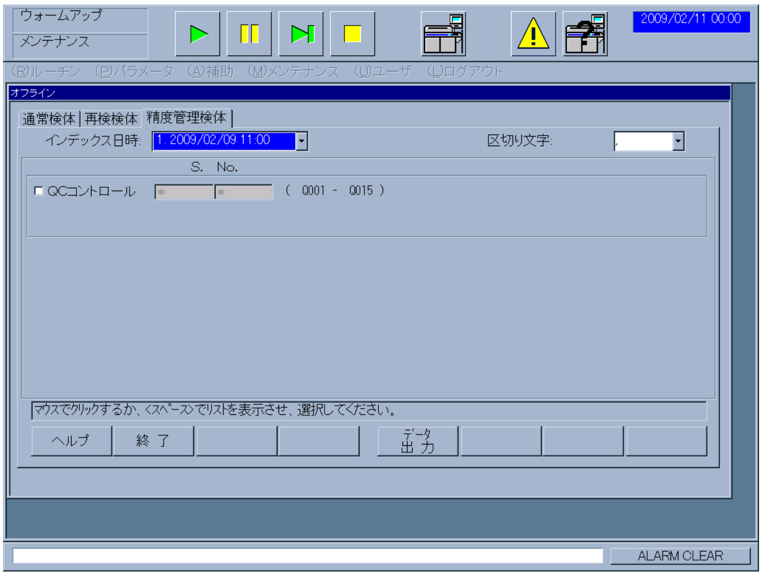
1.TP	2.ALB-G	3.ALB-P	4.TBIL	5.DBIL	6.UN	7.UA	8.CRE
9.GLU	10.AST	11.ALT	12.ALP	13.GGT	14.LDH	15.AMY	16.CK
17.CK-MB	18.LAP	19.CHE	20.T-Cho	21.TG	22.HDL-C	23.LDL-C	24.Ca
25.CaAz	26.Mg	27.IP-M	28.IP-E	29.Fe	30.UIBC	31.TTT	32.ZTT
33.IgG	34.IgA	35.IgM	36.C3	37.C4	38.CRP	39.RF	40.ASO
41.	42.N-Hb	43.N-A1c	44.HbA1cN	45.LI	46.HbA1cM	47.	48.
49.	50.	51.	52.	53.	54.	55.	56.
57.	58.	59.	60.	61.	62.	63.	64.
65.	66.	67.	68.	69.	70.	71.	72.
73.	74.	75.	76.	77.	78.	79.	80.
81.	82.	83.	84.	85.	86.	87.	88.
89.	90.	91.CLN1	92.	93.	94.	95.	96.LIH
97.Na	98.K	99.Cl	DENAT	101.T-Hb	102.HbA1c	103.340nm	104.480nm
105.600nm	106.R-150	107.S-1	108.S-2	109.S-5	110.	111.	112.
113.	114.	115.	116.	117.	118.	119.	120.

QC データの保存方法(AU)

各機種共にソフトウエアのバージョンによって画面・機能に違いがある場合があります。
また、CSV（テキスト）ファイルの取り込みに際しては、フロッピーディスクや USB メモリなど記憶媒体の利用に関する、AU シリーズ取扱説明書の記載についてもご留意ください。

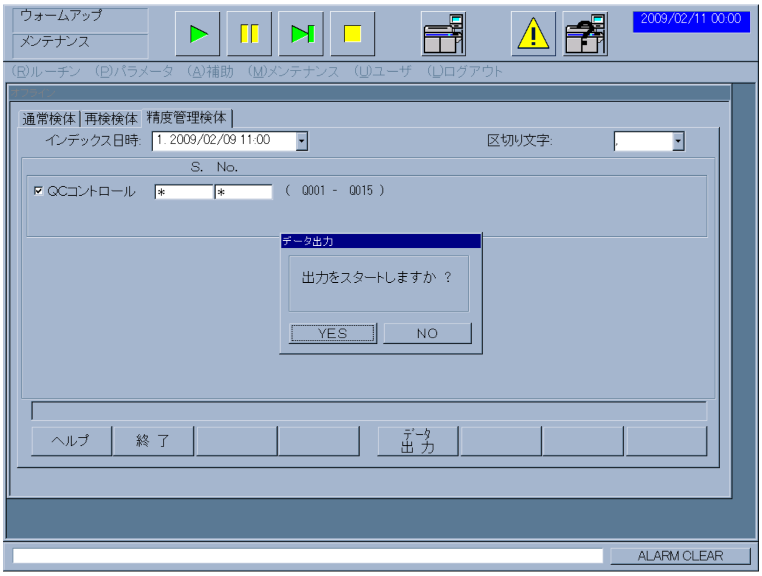
<AU400、AU640 の場合>

1. いずれかの画面を開いている場合は、「F2：終了」キーを押して画面を閉じます。ウォームアップ・スタンバイ・ストップのいずれかの状態にしてください。
2. メニューバーから「メンテナンス」→「データ処理」→「オフライン」を選択すると、オフライン画面が表示されます。
3. 「精度管理検体」タブを開きます。



オフライン（精度管理検体）画面

4. インデックス日時を選択してください。
5. 区切り文字は「，（カンマ）」を選択してください。
6. QC コントロールにチェックを入れてください。
7. 「F5：データ出力」キーを押すと、データ出力確認メッセージが表示されます。「YES」を押してください。



オフライン（出力確認）画面

8. 表示されるメッセージの指示に従って、メディアをセットしてください。

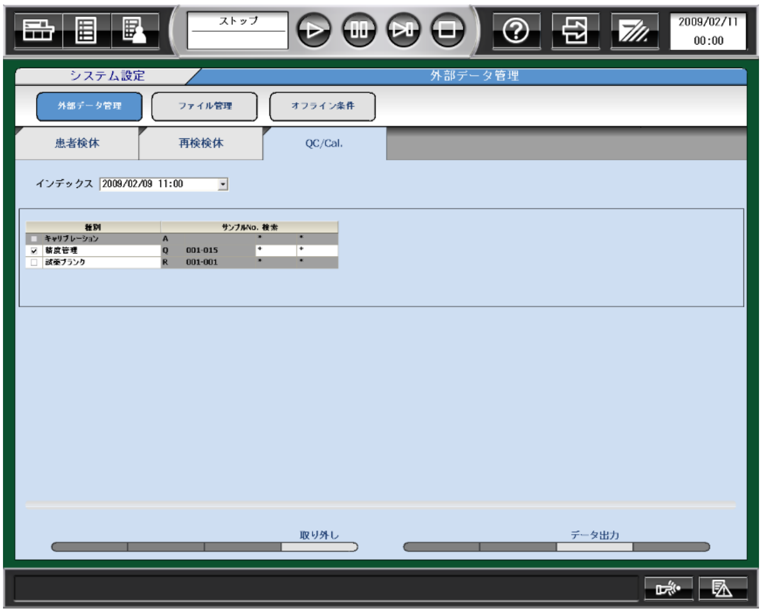
<AU680、AU480、AU5800 の場合>

1. ウォームアップ・スタンバイ・ストップのいずれかの状態にしてください。
2. 「メニュー」キーを押します。メニューリストから「システム設定」→「外部データ管理」を選択すると、「外部データ管理」画面が表示されます。
3. 「オフライン条件」画面に切り換え、「データ出力条件」タブを開きます。

オフライン条件画面

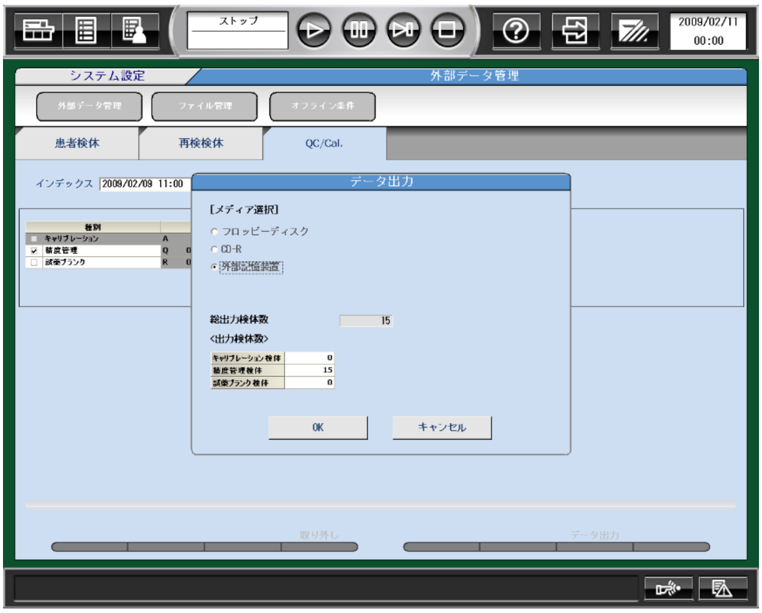
4. 検体出力条件の「性別/年齢/月齢」、「患者情報 1～6」および、項目ブロック出力条件の「分析結果（OD）」、「試薬ロット No. /ボトル No. 」、「検体分注パターン」のそれぞれの「出力」にチェックが付いていないことを確認してください。

   「出力」にチェックが付いている場合は、チェックをはずしてください。
5. 「外部データ管理」画面に切り換え、「QC/Cal.」タブを開きます。



外部データ管理画面

6. インデックスの日時を選択してください。
7. 精度管理にチェックを入れてください。
8. 「F7：データ出力」キーを押すと、データ出力確認画面が表示されます。

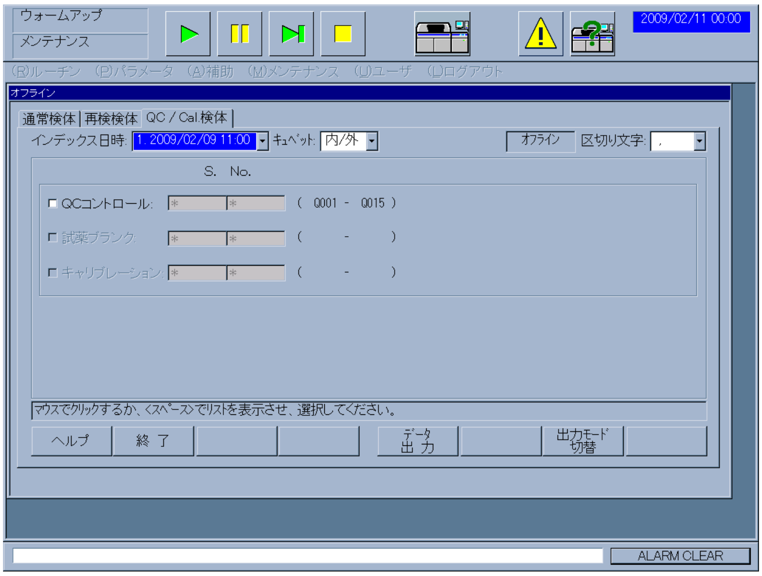


外部データ管理（出力確認）画面

9. メディアを選択して、「OK」を押します。
10. 表示されるメッセージの指示に従って、メディアをセットしてください。

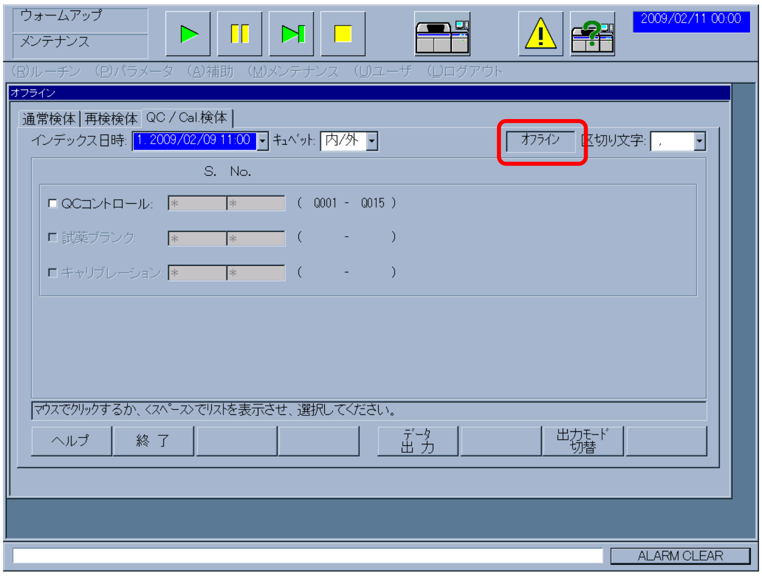
<AU2700、AU5400 の場合>

1. いずれかの画面を開いている場合は、「F2：終了」キーを押して画面を閉じます。ウォームアップ・スタンバイ・ストップのいずれかの状態にしてください。
2. メニューバーから「メンテナンス」→「データ処理」→「オフライン」を選択すると、オフライン画面が表示されます。
3. 「QC/Cal.検体」タブを開きます。



オフライン（QC/Cal.検体）画面

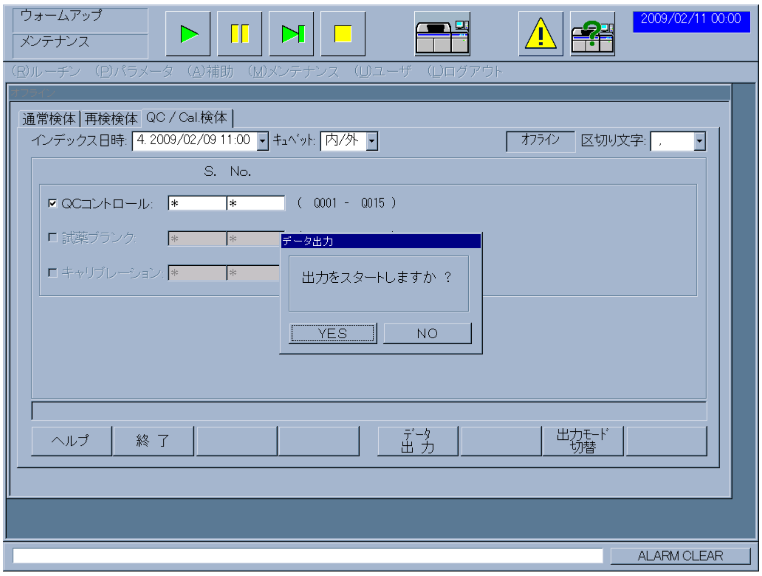
4. 出力モード表示が「オフライン」であることを確認してください。
   表示が「データ出力」の場合は、「F7：出力モード切替」キーを押すと、出力モードが「オフライン」に切り替わります。



オフライン（QC/Cal.検体）画面

5. インデックスの日時を選択してください。
6. 区切り文字は「，（カンマ）」を選択してください。
7. QC コントロールにチェックを入れてください。

8. 「F5：データ出力」キーを押すと、データ出力確認メッセージが表示されます。「YES」を押してください。



オフライン（出力確認）画面

9. 表示されるメッセージの指示に従って、メディアをセットしてください。

<DxC 700AU の場合>

1．測定結果、キャリブレーションデータの出力

① 「結果出力」アイコンから「サンプルマネージャ」を選択してください。

（メニューリストからも同様の操作が可能です。）

② 「検索条件(F3)」から出力するデータ範囲（インデックス日時）を指定してください。

③ 出力するデータ種（通常の測定データか RB/Cal/QC）を選択し、サンプル種別に☑を入れてください。

※ 通常の測定データと RB/Cal/QC データは同時に出力可能です。

※ ここで出力されるキャリブレーションデータは設定された多重測定回数に基づき算出された平均 OD 値です。キャリブレータの実測 OD 値が必要な場合は、リアクションデータを参照してください。

※ デフォルトで現在のインデックス内のすべてのデータ種が選択されています。データ出力範囲（インデックス日時）を変更しない場合は、出力するデータ種を選択する必要はありません。

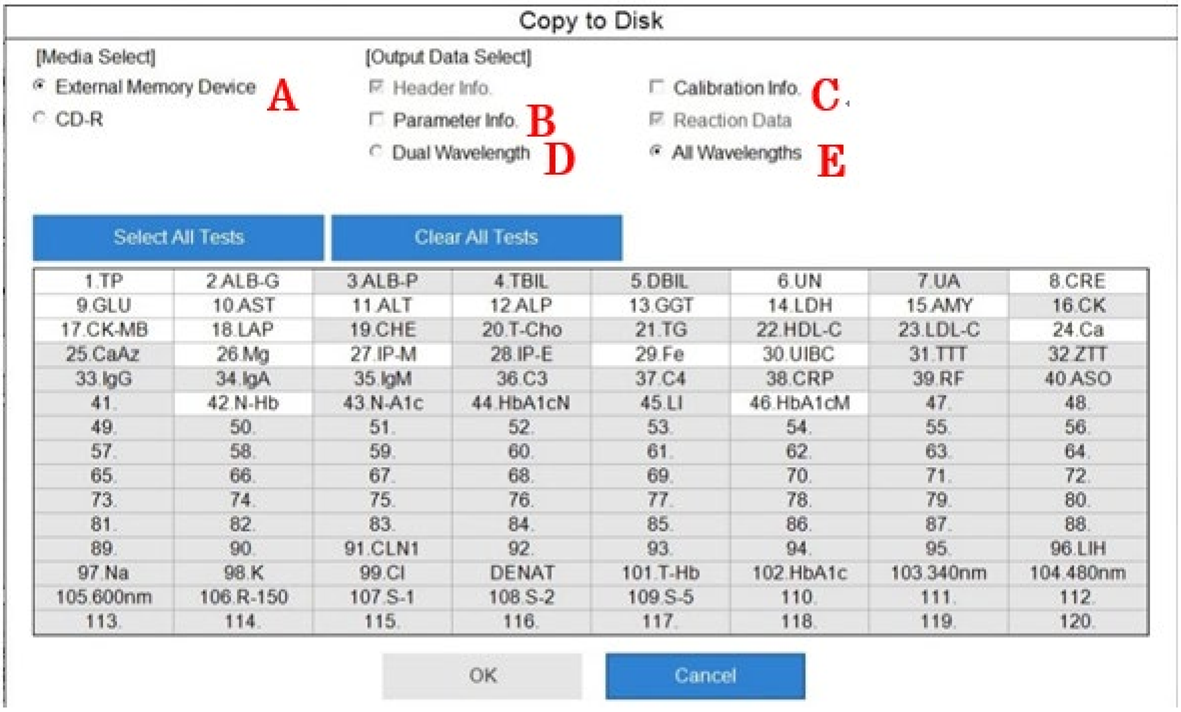
④ 必要なデータを選択し終わったら「OK」を押下し、「検索条件」画面を閉じます。

⑤ データを出力するメディア（USB フラッシュメモリまたは CD-R）を挿入し、「ディスクへコピー(F2)」を押下してください。

⑥ データを出力するメディアの種類を選択し「OK」を押下してください。

USB フラッシュメモリに出力する場合は「外部記憶装置」を選択してください。

⑦ 再度「OK」を押下してください。



A) USB フラッシュメモリに出力する場合は「外部記憶装置」を選択してください。

B) 同時にパラメータ情報を出力させる場合に☑チェックを入れてください。

C) 同時にキャリブレーションデータを出力させる場合に☑チェックを入れてください。

D) 2 波長測光データのみを出力する場合に選択してください。

E) 全波長の測光データを出力する場合に選択してください。

⑦ データ出力する項目を選択してください。選択した項目は背景が青色に変わります。必要な項目を選択し終わったら、「OK」を押下してください。

※　全項目を選択する場合は「全項目選択」を押下してください。

2. その他ファイルの出力方法

メンテナンス内の「ファイル管理」をご使用ください。

既存 AU シリーズの「外部データ管理」がこちらに相当します。

① 「メンテナンス」アイコンから「ファイル管理」を選択してください。（メニューリストからも同様の操作が可能です。）

② 「ファイル選択」を押下し、必要なファイルを選択してください。選択したファイルは背景が青色に変わります。必要なファイルを選択し終わったら、「OK」を押下してください。

3. 「ディスクへコピー」を使用し、測定中にデータを出力する方法

ファイル出力を有効にすることで、測定中でもメディアへのデータ出力が可能となります。

※ 以下の設定変更は「スタンバイ」状態で行う必要があります。

※ 以下の設定変更は装置を起動させる度に行う必要があります。

① 「パラメータ」アイコンから「リストフォーマット」を選択してください。

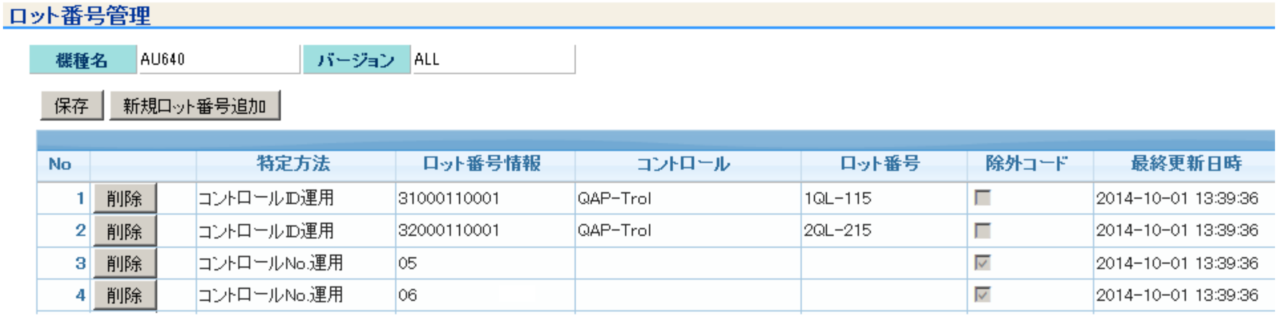
② 「ファイル出力」に☑チェックを入れてください。

ロット番号管理(AU)

ロット番号情報の特定にはいくつかの方法があります。

機種名	特定方法	
AU400	1. コントロール ID 運用	2. コントロール No.運用
AU480	1. サンプル ID 運用	2. カインド ID 運用
AU640	1. コントロール ID 運用	2. コントロール No.運用
AU680	1. サンプル ID 運用	2. カインド ID 運用
AU2700	1. コントロール ID 運用	2. コントロール No.運用
AU5400	1. コントロール ID 運用	2. コントロール No.運用
AU5800	1. サンプル ID 運用	2. カインド ID 運用

1. ホーム ＞ データ取り込み
2. 分析装置の機種名、バージョン名、単位種別を選択して、[ファイル選択]をクリックします。
3. ファイル選択画面が表示されます。データの保存先を指定して[OK]をクリックしてください。
4. 未登録のロット情報が存在する場合、「ロット番号管理」画面が表示されます。
   特定方法、ロット番号情報は取り込みデータから自動で判断されますので、変更しないでください。


ロット番号管理

機種名 AU640 バージョン ALL

保存 新規ロット番号追加

No		特定方法	ロット番号情報	コントロール	ロット番号	除外コード	最終更新日時
1	削除	コントロールID運用	31000110001	QAP-Trol	1QL-115	☐	2014-10-01 13:39:36
2	削除	コントロールID運用	32000110001	QAP-Trol	2QL-215	☐	2014-10-01 13:39:36
3	削除	コントロールNo.運用	05			☑	2014-10-01 13:39:36
4	削除	コントロールNo.運用	06			☑	2014-10-01 13:39:36

5. 使用するロット番号情報に対応する[コントロール]を選択してください。
6. [ロット番号]を選択してください。ロット番号は「レベル＋試料のビンラベルに記載してある製造番号（例：1QL-109）」となります。
7. 「データ取り込み」画面で取り込む必要がないロット番号情報は[除外コード]にチェックを入れてください。
   （上図は手順 5～7 が完了した画面を示します）
8. 入力完了後、[保存]ボタンをクリックしてください。
9. 確認画面が表示されます。[OK]をクリックしてください。
10. 画面左上の データ取り込み をクリックし、「データ取り込み」画面に戻ります。

問い合わせ窓口一覧(AU)

1. QC Register システムに関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にて対応いたします。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
シスメックス株式会社 カスタマーサポートセンター	(電話) 0120-413-034 (FAX) 078-992-3373	9:00～17:35 平日(就業日に限る)

2. 自動分析装置に関する問い合わせは、メーカーのサービス窓口にて対応いたします。

ロシュ分析装置の機種別操作

測定項目管理(ROCHE)

QC データの保存方法(ROCHE)

<モジュラーアナリティクスの場合>

<Cobas6000 (c501)の場合>

<Cobas8000 (c702) (c502)の場合>

ロット番号管理(ROCHE)

問い合わせ窓口一覧(ROCHE)

測定項目管理(ROCHE)

装置毎に設定されている番号[数字]を[測定項目情報]に入力してください。

[測定項目情報]の設定は機種ごとに異なりますので、下表を参照して該当する項目を入力してください。

[測定項目情報]の確認方法は、QC データを保存したファイルをメモ帳等のテキストエディタで開いてください。

機種	測定項目情報　入力内容	設定例
モジュラー P/D	「アプリケーションコード No」（1～9999） 「モジュール」（P1, P2, D1,D2 など） を半角「+」で連結	**アプリケーションコード No.が “200”、 モジュールが “P1” の場合 ⇒ 200+P1**
Cobas6000 (c501) 注 1	「アプリケーションコード No」（1～9999） 「モジュール」 を半角「+」で連結	**アプリケーションコード No.が “200”、 モジュールが “P1” の場合 ⇒ 200+P1**
Cobas8000 (c502) 注 12	「アプリケーションコード No」（1～9999） 「モジュール」（2-c502 など） を半角「+」で連結	**アプリケーションコード No.が “4208”、 モジュールが “2-c 502” の場合 4208+2-c 502**
Cobas8000 (c702) 注 1	「アプリケーションコード No」（1～9999） 「モジュール」（1-c 702-B など） を半角「+」で連結	**アプリケーションコード No.が “3154”、 モジュールが “1-c 702-B” の場合 3154+1-c 702-B**

※　「測定項目情報」には、テキストファイルに出力されるデータと一致した情報を入力する必要があります。[測定項目情報]を正確に入力していないと、分析装置から QC Register システムにデータを取り込むことができません。

各装置での項目の確認方法、その他操作方法については、「問い合わせ窓口一覧」までお問い合わせください。

注1 本装置では、同時刻に 1 つの項目に対して複数のデータが存在する場合があります。その場合は、試薬使用状況（Reagent）のうち一番小さいもののデータを読み込みます。読み込み対象データが複数の場合、平均値を算出しその値を読み込みます。

例）　測定日時が同じ 4 つのデータがある場合、試薬使用状況の一番小さい”0”の 2 つのデータが読み込み対象となります。”98”と”99”の平均値”98.5”を測定結果として読み込みます。

		22005	UN			22402	GGT		
検体ID	測定日時	測定結果	単位		試薬使用状況	測定結果	単位		試薬使用状況
QAP-2　1477	2013/06/27 13:37:35	44.8	mg/dL	…	0	98	U/L	…	0
QAP-2　1477	2013/06/27 13:37:35		mg/dL	…	0	99	U/L	…	0
QAP-2　1477	2013/06/27 13:37:35			…		100	U/L	…	1
QAP-2　1477	2013/06/27 13:37:35			…		100	U/L	…	1

出力データサンプル

Cobas6000 c501 の項目コードを確認する手順

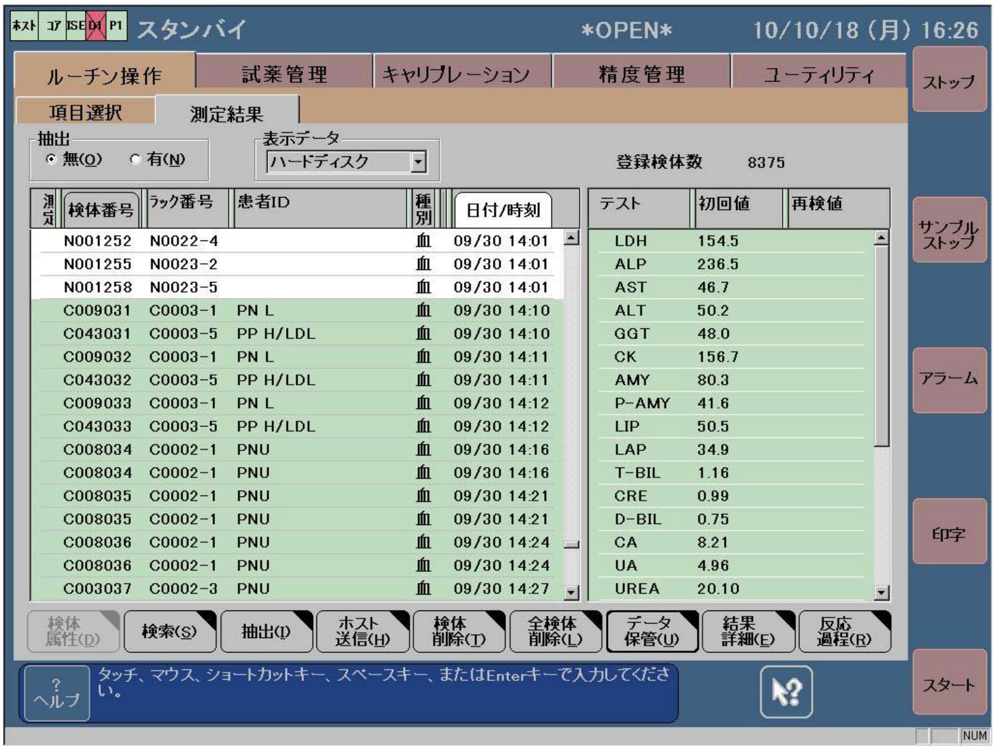
1. ユーティリティをクリック
2. アプリケーションをクリック
3. 項目リストの中から確認したい項目を選択する
4. 範囲を開く
5. 1 行目に項目コードが載っている。

QC データの保存方法(ROCHE)

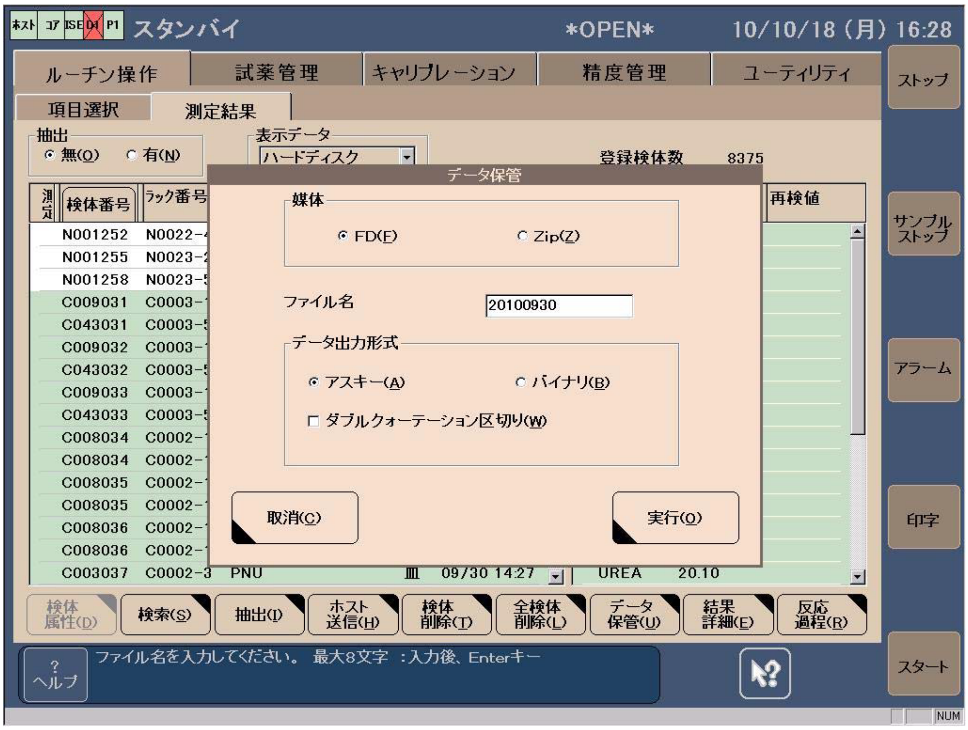
<モジュラーアナリティクス の場合>

コントロールデータをモジュラーアナリティクスから FD 等に保存する手順

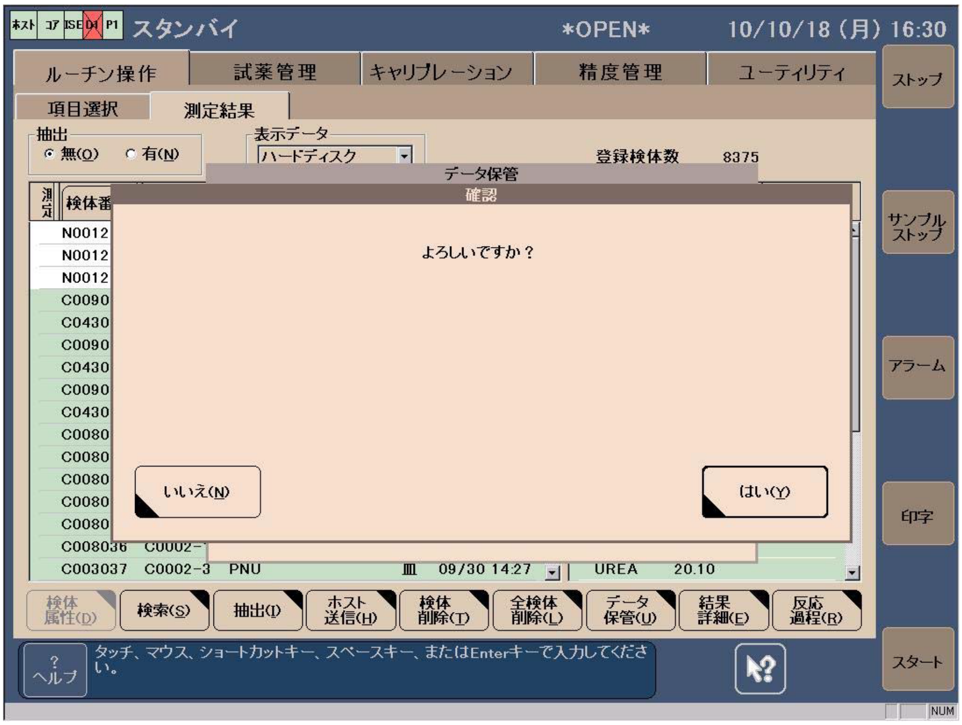
1．<ルーチン操作><測定結果>画面を開き、保存する結果を選択します。



2．<データ保管(U)>をクリックし下記画面を開き、<FD>（フロッピーディスク）もしくは<Zip>を選択します。“ファイル名“を入力します。毎日のデータを保存する場合は、ファイル名を日付にしておくと判り易いと思います。<アスキー(A)>を選択して、<実行(O)>をクリックします。



3．すると次の画面が表示されますので、<はい(Y)>をクリックします。するとコントロールデータが FD（フロッピーディスク）もしくは Zip に保存されます。



,,,,,,,,,,,,,,,,,,,311,,,,,,312,,,,,,313,,,,,,314,,,,,,315,,,,,,320,,,,,,989,,,,,,990,,,,,,991,,,,,,992,,,,,,993,,,,,
,994,,,,,,2027,,,,,,2028,,,,,,2089,,,,,,2090,,,,,,2091,,,,,,2092,,,,,,2093,,,,,,2094,,,,,,2099,,,,,,2411,,,,,,2445,,,,
,,2447,,,,,,2456,,,,,,3004,,,,,,3016,,,,,,3030,,,,,,3032,,,,,,3036,,,,,,3038,,,,,,3039,,,,,,3043,,,,,,3046,,,,,,3052,,
,,,,3054,,,,,,3069,,,,,,3082,,,,,,3437,,,,,,3438,,,,,,3442,,,,,,3444,,,,,,3446,,,,,,3475,,,,,,3496,,,,,,3738,,,,,,3744
,,,,,,3746,,,,,,3747,,,,,,3748,,,,,,3760,,,,,,3767,,,,,,3777,,,,,,3780,,,,,,4013,,,,,,4014,,,,,,4024,,,,,,4025,,,,,,44
08,,,,,,4411,,,,,,4412,,,,,,4445,,,,,,4558,,,,,,4559,,,,,,5620,,,,,,5621,,,,,,
R_Type1,R_Type2,S_Type,S_No.,R_No.,Pos,S_ID,A_Date,Age,A_Unit,Sex,S_Date,C1,C2,C3,C4,C5,Cup,Ope_ID,Pre_Dil,Value,V_Uni
t,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_
Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Mo
dule,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value
,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_
Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,
Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module
,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_U
nit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,
R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,
Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Val
ue,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,
D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Ms
g,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Modu
le,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V
_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Al
m,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Di
l,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,V
alue,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Uni
t,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_
Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Module,Value,V_Unit,D_Alm,R_Msg,Dil,Mo
dule,
1,1,1,,98,4,   65643967001,2014/10/22 17:14:33,,,,2014/10/22 17:14:55,01-22-0412   ,,,,,1,
 ,0,,,,,,,,,,,,,,0,無し ,,,1,X1-A,,,,,,,,,,,,,,,,,,,140,mmol/L,,,1,I1,3.0,mmol/L,,,1,I1,107,mmol/L,,,1,I1,0,,,,1,X1-
A,0,,,,1,X1-A,0,,,,1,X1-A,,13.8,mg/dL ,,,1,X1-
B,,,,,,,,,,,,,,,,,,,4.25,mg/dL ,,,1,X1-
B,,1.5,mg/dL ,,,1,X1-A,,,,,,,8.1,mg/dL ,,,1,X1

<Cobas6000 (c501) の場合>

コントロールデータを cobas6000 <501>から USB に保存する手順

1. <ルーチン操作><測定結果>画面を開き、保存する結果を選択します。

2. <データ保管>をクリックし下記画面を開き、<外部メディア>を選択します。

“ファイル名“を入力します。毎日のデータを保存する場合は、ファイル名を日付にしておくと判り易いと思います。

<アスキー><全体データ出力>を選択して、<ＯＫ>をクリックします。すると、コントロールデータが USB に保存されます。

3．USB メモリーを取り外します。

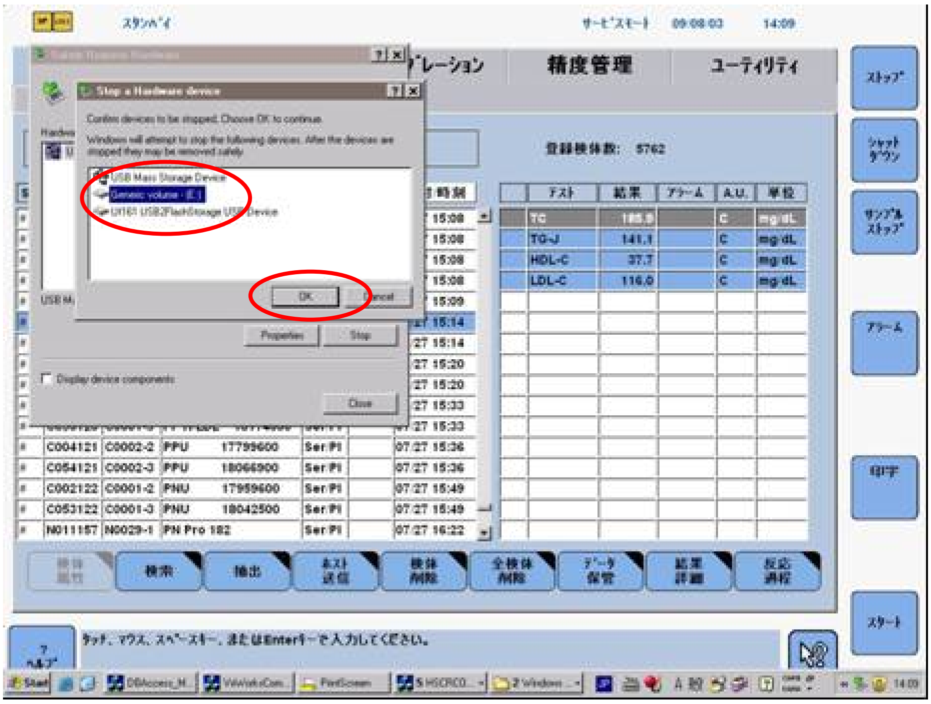
（キーボードの Windows ボタン）を押します。すると下記画面が表示されます。

4．画面右下の （取り出しボタン）をクリックします。下記画面が表示されます。

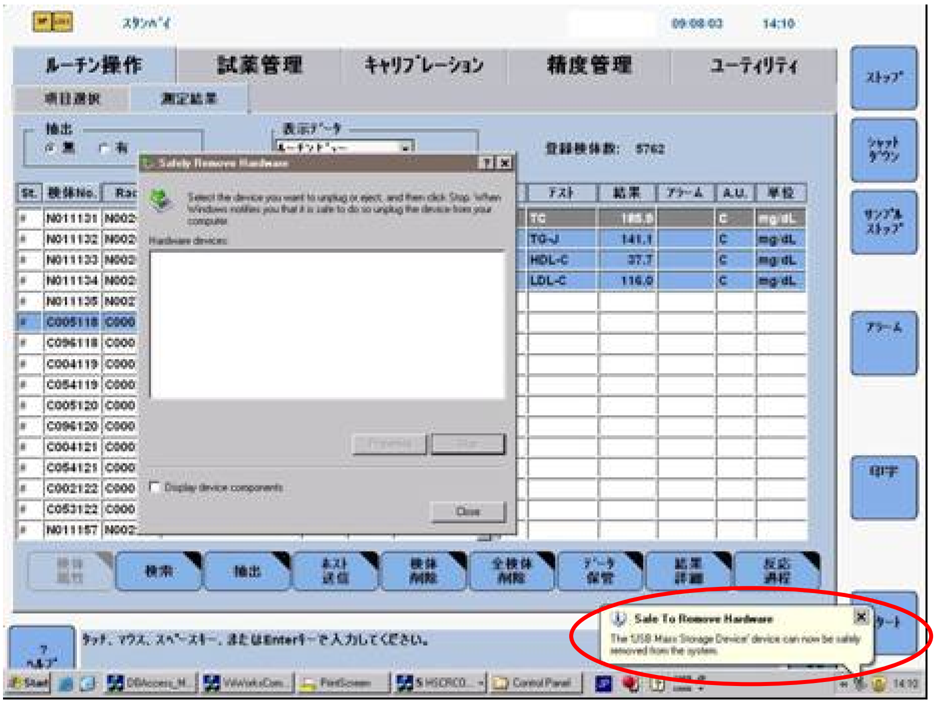
<Stop> ボタンをクリックします。

作成 2021/05/21

5．USB メモリーを選択し、＜ＯＫ＞をクリックします。



6．このメッセージが出ましたら、USB メモリーを取り外してください。



<Cobas8000 (c702)(c502) の場合>

QAP トロールのデータを cobas8000 <c702> <c502>から DVD に保存する手順

＜ご用意いただくもの＞

DVD＋R、DVD－RW、DVD＋RW のどれかを １枚

＜準備作業＞

DVD をフォーマットします。

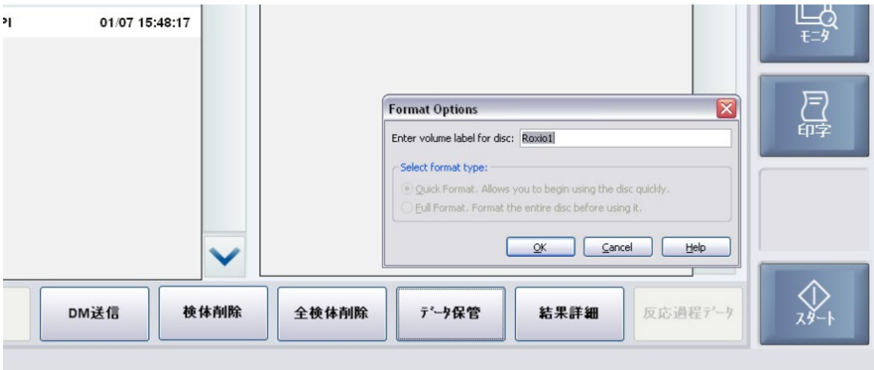
注意 フォーマットは、必ずコバス 8000 の操作部コンピューターで行ってください。

注意 DVD の挿入および取り出しは、アクセスランプが消灯している時に行ってください。

１． 装置がスタンバイ状態であることを確認します。

２． 操作部 PC の DVD ドライブに DVD を挿入します。アクセスランプが消灯するまで待ちます。

３． キーボードにて、<Ctrl> ＋ <F7> を押し、Format（Option）ウィンドウを表示します。



４．「Enter volume label ファイル名を入力します。

「Quick Format」を選択し、 OK で確定します。

（ディスクのタイプによっては、Full Format しか選択できない場合があります。）

DVD が Format されます。数分かかることがあります。

５． ダイアログボックスが閉じるまで待ちます。

これで DVD にデータをバックアップできます。

DVD を取り出す時は、アクセスランプが消灯している状態で行います。

注意 ファイナライゼーションは必要ありません。

DVD に対し他のコンピューターとの互換性確保を行う必要はありません。

互換性確保はコバス 8000 のドライブからディスクを取り出す際に自動的に行われます。

＜保存作業＞

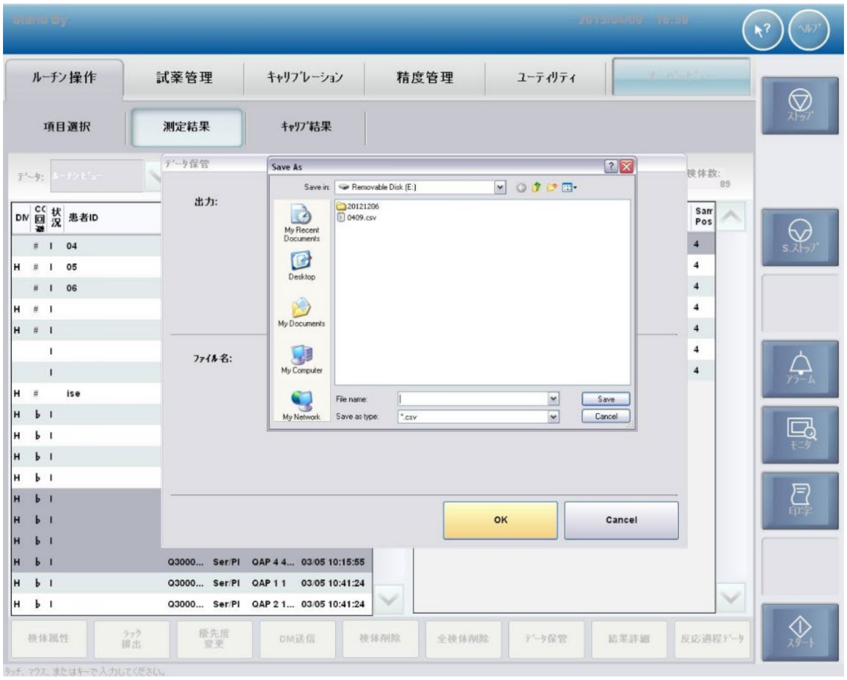
1．＜ルーチン操作＞＜測定結果＞画面を開き、保存する結果を選択します。

2．＜データ保管＞をクリックし下記画面を開き、＜検体結果 (CSV)＞を選択します。

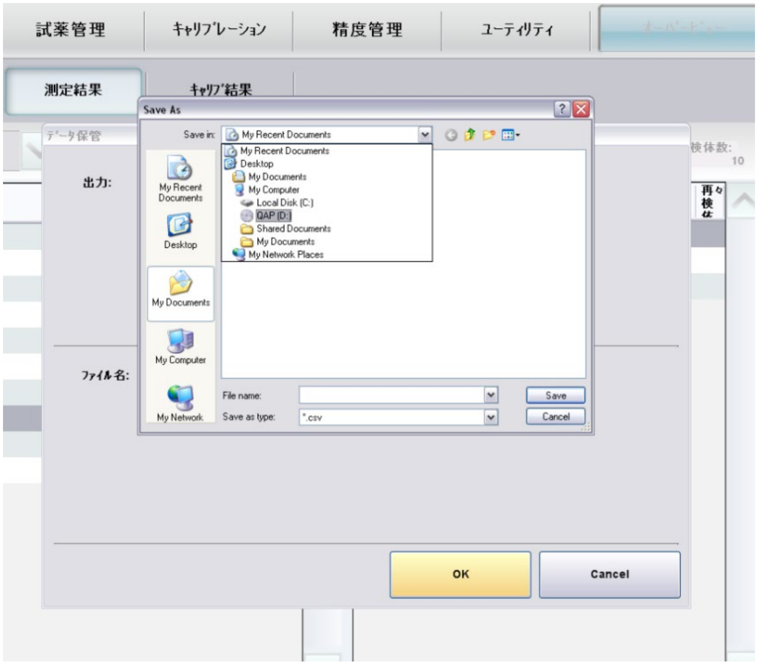
3．ファイル名を入力します。

ファイルを保存する場所を指定しますので、右側の　･･･　をクリックします。

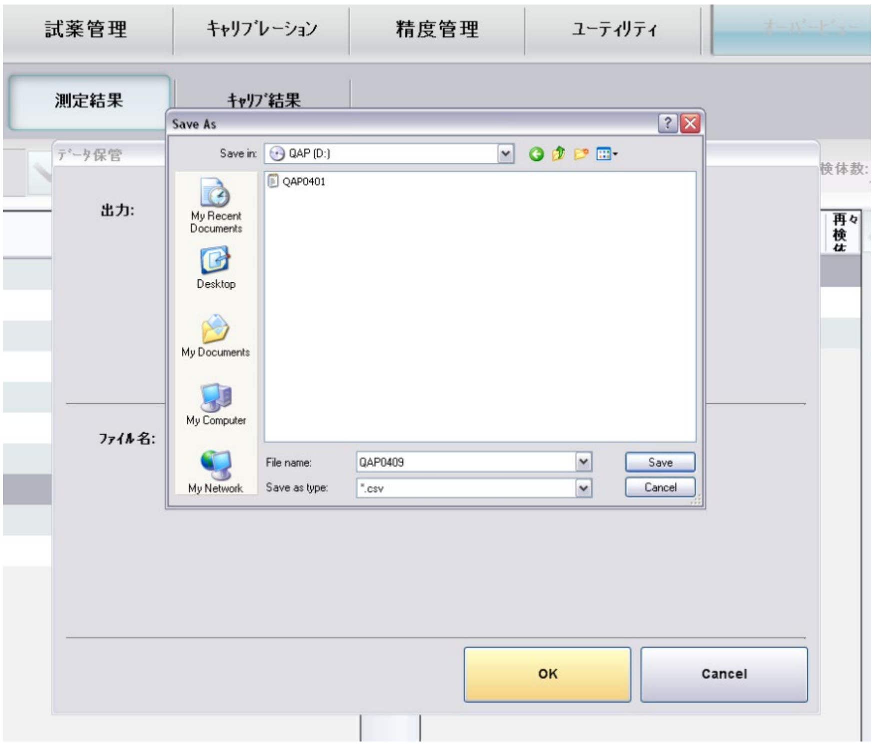
4．「Save As」画面がポップアップします。



5．Desktop / My Computer / 該当の DVD ドライブ（例 QAP [D:]）をクリックします。

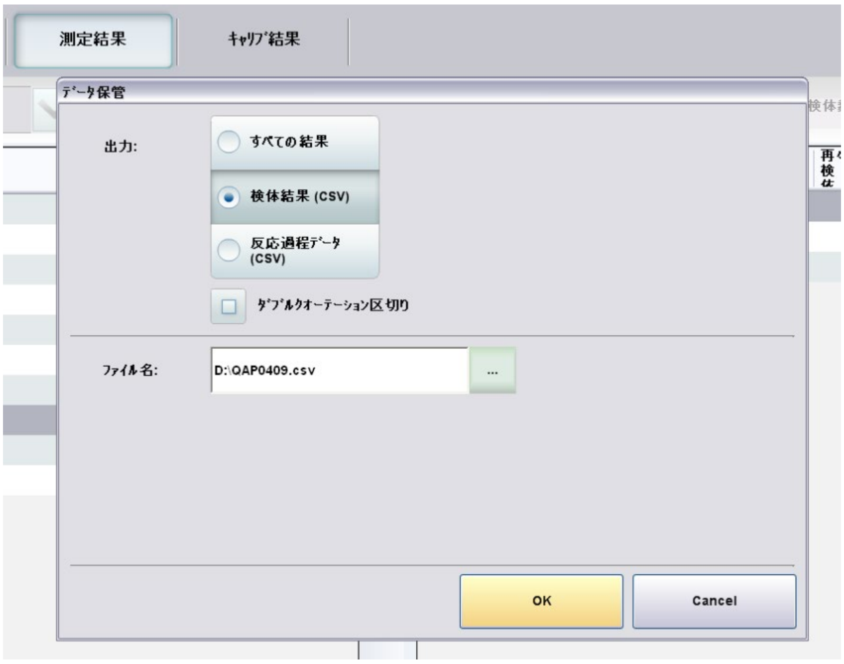


6．「File name」にデータファイルの名前を入力します。次に　OK　をクリックします。



７．データ保管画面に戻ります。

「ファイル名：」に入力した名前が表示されていることを確認してから、 OK をクリックします。これで QAP トロールの結果が保存されます。



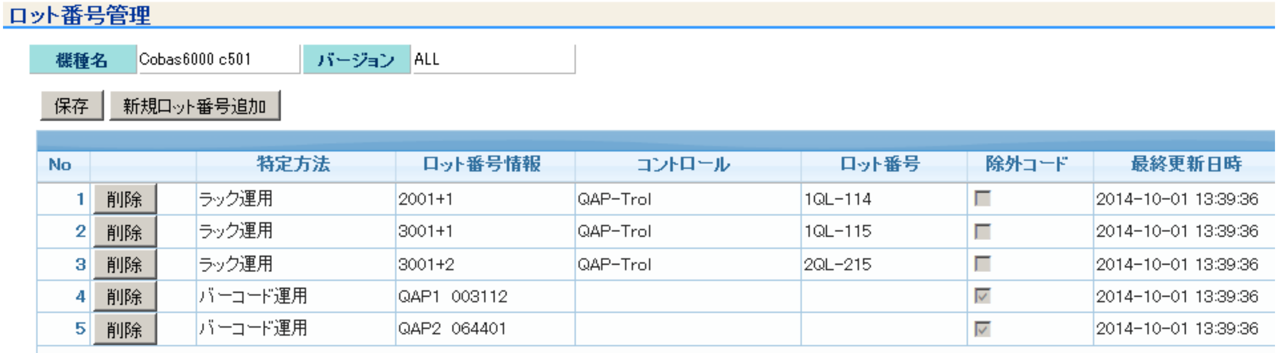
８．アクセスランプが消灯していることを確認し、DVD ドライブから DVD を取り出します。

ロット番号管理(ROCHE)

ロット番号情報の特定にはいくつかの方法があります。

1. ホーム ＞ データ取り込み
2. 分析装置の機種名、バージョン名、単位種別を選択して、[ファイル選択]をクリックします。
3. ファイル選択画面が表示されます。データの保存先を指定して[OK]をクリックしてください。
4. 未登録のロット情報が存在する場合、「ロット番号管理」画面が表示されます。

特定方法、ロット番号情報は取り込みデータから自動で判断されますので、変更しないでください。



ロット番号管理

機種名 Cobas6000 c501　バージョン ALL

保存　新規ロット番号追加

No		特定方法	ロット番号情報	コントロール	ロット番号	除外コード	最終更新日時
1	削除	ラック運用	2001+1	QAP-Trol	1QL-114	☐	2014-10-01 13:39:36
2	削除	ラック運用	3001+1	QAP-Trol	1QL-115	☐	2014-10-01 13:39:36
3	削除	ラック運用	3001+2	QAP-Trol	2QL-215	☐	2014-10-01 13:39:36
4	削除	バーコード運用	QAP1 003112			☑	2014-10-01 13:39:36
5	削除	バーコード運用	QAP2 064401			☑	2014-10-01 13:39:36

問い合わせ窓口一覧(ROCHE)

1. QC Register システムに関する問い合わせは、下記の問い合わせ窓口にて対応いたします。

問い合わせ窓口	連絡番号	受付時間
シスメックス株式会社 カスタマーサポートセンター	(電話) 0120-413-034 (FAX) 078-992-3373	9:00～17:35 平日(就業日に限る)

2. 自動分析装置に関する問い合わせは、メーカーのサービス窓口にて対応いたします。

シーメンス分析装置の機種別操作

測定項目管理(SIEM)

QC データの保存方法(SIEM)

ロット番号管理(SIEM)

問い合わせ窓口(SIEM)

測定項目管理(SIEM)

(分析装置のチャンネル情報を確認する方法)

(1) ディメンション EXL,RxL Max 共通

QC データの最左列の「項目」がチャンネル情報です。なお、「γ」は使用できませんので分析装置本体の設定を「r」又は「G」に変更して下さい。

項目	QCレベル	結果	フラグ
ALB	SerumQC1	3.96	
AMY	SerumQC1	115.5	
AMY	SerumQC1	116.7	HI
BUN	SerumQC1	13.17	HI
CA	SerumQC1	7.88	
GLUC	SerumQC1	101.4	
TP	SerumQC1	5.61	
NA	SerumQC1	141.7	
K	SerumQC1	4.25	
CL	SerumQC1	99.7	
WALT	SerumQC1	43.3	
WAST	SerumQC1	48.3	
WCE	SerumQC1	233.9	
WCRE	SerumQC1	1.097	
WDB	SerumQC1	0.18	
WLDH	SerumQC1	112.6	
WLDH	SerumQC1	115.6	
WTB	SerumQC1	0.40	
WCK	SerumQC1	112.0	
WIP	SerumQC1	4.49	
GGT	SerumQC1	43.4	
URCA	SerumQC1	3.82	
URCA	SerumQC1	3.89	
WAP	SerumQC1	191.7	HI
AMM	SerumQC1	72.8	

測定項目管理

テンプレート名 選択

登録 項目追加

No			表示順	測定項目情報	項目名	分類コード	方法コード
1	削除	コピー	999	TP	TP	3A010-0:TP-ALL	01:BIURET
2	削除	コピー	999	ALB	ALB	3A015-0:ALB-ALL	02:BCP
3	削除	コピー	999	WCK	CK	3B010-9:CK-JSCC	11:JSCC
4	削除	コピー	999	WAST	AST	3B035-9:AST-JSCC	11:JSCC
5	削除	コピー	999	WALT	ALT	3B045-9:ALT-JSCC	11:JSCC
6	削除	コピー	999	WLDH	LD	3B050-9:LD-JSCC	11:JSCC
7	削除	コピー	999	WAP	ALP	3B070-9:ALP-JSCC	11:JSCC
8	削除	コピー	999	GGT	GGT	3B090-9:GGT-JSCC	11:IFCC-JSCC
9	削除	コピー	999	AMY	AMY	3B160-9:AMY-JSCC	11:JSCC

(2) Atellica CH930

QC データの最左列の「項目」がチャンネル情報です。なお、「y」は使用できませんので分析装置本体の設定を「r」又は「G」に変更して下さい。

項目	コントロール	ロット	結果	日付	Qualitative	モジュールSN	検体のタイプ
TP	QAP 2X	QL-221	7.29	2021/03/23 9:57:33	False	CM02371	Serum↓
TBil_2	QAP 2X	QL-221	4.25	2021/03/23 9:57:30	False	CM02371	Serum↓
JHDL	QAP 2X	QL-221	101.00	2021/03/23 9:57:24	False	CM02371	Serum↓
JBUN	QAP 2X	QL-221	45.8	2021/03/23 9:57:15	False	CM02371	Serum↓
JALB	QAP 2X	QL-221	4.53	2021/03/23 9:57:12	False	CM02371	Serum↓
GGTJ	QAP 2X	QL-221	81.9	2021/03/23 9:57:06	False	CM02371	Serum↓
ASTJ	QAP 2X	QL-221	103.2	2021/03/23 9:57:03	False	CM02371	Serum↓
ALTJ	QAP 2X	QL-221	88.9	2021/03/23 9:57:00	False	CM02371	Serum↓
JCRP	QAP 2X	QL-221	3.920	2021/03/23 9:56:54	False	CM02371	Serum↓
AMYJ	QAP 2X	QL-221	271.2	2021/03/23 9:56:42	False	CM02371	Serum↓
LDLP	QAP 2X	QL-221	407.2	2021/03/23 9:56:33	False	CM02371	Serum↓
JCHE	QAP 2X	QL-221	342.6	2021/03/23 9:56:33	False	CM02371	Serum↓
ALP_2c	QAP 2X	QL-221	180.6	2021/03/23 9:55:33	False	CM02371	Serum↓
GluH_3	QAP 2X	QL-221	250.00	2021/03/23 9:54:54	False	CM02371	Serum↓
UA	QAP 2X	QL-221	8.9	2021/03/23 9:54:30	False	CM02371	Serum↓
JFE	QAP 1X	QL-121	107.00	2021/03/23 9:44:39	False	CM02371	Serum↓
JTCHO	QAP 1X	QL-121	108.00	2021/03/23 9:44:33	False	CM02371	Serum↓
JLDL	QAP 1X	QL-121	56.00	2021/03/23 9:44:30	False	CM02371	Serum↓
JHDL	QAP 1X	QL-121	35.00	2021/03/23 9:44:27	False	CM02371	Serum↓
JBUN	QAP 1X	QL-121	16.9	2021/03/23 9:44:18	False	CM02371	Serum↓
JALB	QAP 1X	QL-121	3.15	2021/03/23 9:44:15	False	CM02371	Serum↓
GGTJ	QAP 1X	QL-121	17.7	2021/03/23 9:44:09	False	CM02371	Serum↓
ECreJ	QAP 1X	QL-121	1.05	2021/03/23 9:44:06	False	CM02371	Serum↓
Chol_2	QAP 1X	QL-121	107.00	2021/03/23 9:44:00	False	CM02371	Serum↓
JCRP	QAP 1X	QL-121	0.421	2021/03/23 9:43:57	False	CM02371	Serum↓

ホーム > 測定項目管理

測定項目管理

テンプレート名 選択

登録 項目追加

No			表示順	測定項目情報	項目名	分類コード	方法コード
1	削除	コピー	1	TP	TP	3A010-0:TP-ALL	01:BIURET
2	削除	コピー	2	JALB	ALB	3A015-0:ALB-ALL	01:BCG
3	削除	コピー	3	ALP_2c	ALP	3B070-8:ALP-IFCC	12:IFCC
4	削除	コピー	4	LDJ	LD	3B050-9:LD-JSCC	11:JSCC
5	削除	コピー	5	ASTJ	AST	3B035-9:AST-JSCC	11:JSCC
6	削除	コピー	6	ALTJ	ALT	3B045-9:ALT-JSCC	11:JSCC
7	削除	コピー	10	JLDL	LDL	3F077-1:LDL-C-KY	62:DIRECT-KY-ML

作成 2021/05/21

QC データの保存方法(SIEM)

(1) ディメンション EXL,RxL Max 共通

1. 装置をスタンバイにして、F5：分析管理 ＞ F8：その他のオプション ＞ F7：検査室データ保存 を押して検査室データ保存の画面を表示します。
2. F5：QC 結果 ON/OFF で QC 結果を保存します。 → ON のフィールドに変更
3. USB メモリを装置に接続し、F1：データ保存 を押します。終ったらメモリを装置から外して、適切なラベルを添付します。

※ USB 保存ではなく、フロッピーディスクを使用している場合、ファイルの大きさを算出してフロッピーディスクが 1 つまたは複数必要であるかを装置が判定しますので従ってください。

【注意】

ファイルには xls の拡張子が付くので Microsoft Excel から開くことができますが、一度開いて保存すると日付データなどが変わってしまい、QC-Register で正しく読めなくなりますので、**絶対に Excel では開かないで下さい。**

やむを得ずデータを編集する場合は、テキストエディター(メモ帳、TeraPad、サクラエディター、秀丸など)を利用して下さい。

(2) Atellica CH930

シーメンス社にお問合せ下さい

ロット番号管理(SIEM)

ロット番号の特定方法は「位置情報運用」、ロット番号情報は「SerumQC1」と「SerumQC2」となりますので、コントロールに QAP-Trol を選択し、ロット番号にはご使用中のロットを選択して下さい。
サンプル ID 運用が表示された場合は、除外コードにチェックを入れて下さい。

ロット番号管理

機種名 Dimension バージョン ALL

保存 新規ロット番号追加

No		特定方法	ロット番号情報	コントロール	ロット番号	除外コード	最終更新日時
1	削除	位置情報運用	SerumQC1	QAP-Trol	1QL-119	☐	2018-05-10 15:
2	削除	位置情報運用	SerumQC2	QAP-Trol	2QL-219	☐	2018-05-10 15:
3	削除	サンプルID運用	9902020100+FB8181			☑	2018-05-10 15:
4	削除	サンプルID運用	9902020100+GC8212			☑	2018-05-10 15:
5	削除	サンプルID運用	9902020100+JB8304			☑	2018-05-10 15:
6	削除	サンプルID運用	9902020100+GA8317			☑	2018-05-10 15:
7	削除	サンプルID運用	9902020100+ID8273			☑	2018-05-10 15:
8	削除	サンプルID運用	9902020100+GA8313			☑	2018-05-10 15:
9	削除	サンプルID運用	9902020100+GB8257			☑	2018-05-10 15:
10	削除	サンプルID運用	9902020100+GC8191			☑	2018-05-10 15:

問い合わせ窓口(SIEM)

自動分析装置の操作方法に関する問い合わせは、以下のサービス窓口にお問い合わせ下さい。

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
カスタマーケアセンター(0120-448-488：24 時間・365 日対応)